

第 19 期 総 会 資 料

2020年2月21日(金) 13:30

機械振興会館 B3F 第1研修室

目 次

1	2019年度 事業報告	1
	第1部 事業概要	1
	1. 本部	1
	2. 委員会	2
	3. 部会	8
	4. 研究会	11
	5. 支部	18
	第2部 <u>会計報告及び会計監査報告</u>	32
2	2020年度 事業計画(案)	38
	1. 本部・計画	38
	2. 委員会・計画	38
	3. 部会・計画	42
	4. 研究会・計画	43
	5. 支部・計画	47
3	2020年度 予算(案)	53
4	2020年度 役員選任(案)	54



特定非営利活動法人
日本システム監査人協会

1 2019年度 事業報告

第1部 事業概要

1. 本部

1. 1. 全般概要

(1) 会員の状況

- 1) 正会員・個人・・・・・・・・・・ 615名
- 2) 正会員・団体・・・・・・・・・・ 28社 (合計 **643**正会員/2019年12月末現在)

2019年度は、例年通り、システム監査活性化委員会活動、月例研究会や事例研セミナーの開催、会報やホームページの内容充実、支部活動の活性化等、協会を挙げてシステム監査の普及・啓発および会員増強に努めた。さらに、システム監査基準・システム管理基準が2018年4月に改訂されたことを受け、『情報システム監査実践マニュアル(第2版)』の改定作業に着手した。ITアセスメント研究会をはじめ関係する研究会等のメンバーからなる改定プロジェクトを組織し(主査:松枝副会長)改定作業を進め、2020年6月初旬発刊を予定している。なお、この改定作業には、友好団体であるシステム監査学会、ISACA東京支部からもメンバーに入っていた。

また、公認システム監査人認定事業の充実に努め、公認システム監査人認定者の増大、公認システム監査人の活躍の場の拡大などに、従前に引き続き力を入れた。

その結果、個人入会者は45名(2018年度32名、2017年度27名)、団体入会は、1社(2018年度4社、2017年度2社)と入会実績は2018年度を上回っている。会員資格の継続者のうち、2019年の終身会員制度適用者として、65歳以上4名(2018年度4名、2017年度3名、75歳以上は申請なし)が終身会員として資格を継続され、終身会員総数は累計で27名となった。また、“定年を迎えて”、“システム監査業務から離れたので”などの理由による退会が増えているが、2019年度の退会者は54名(2018年度52名、2017年度61名)となっている。退会者54名のうち、除名者が16名(2018年度8名、2017年度16名)と推移しているが、会費を完納されて退会される比率が維持されている。一方、団体会員の退会は3社(2018年度4社、2017年度3社)であった。会員規程第3条(会費納入期限)に基づき、年度末(12月末)までの1年間を納入期限としたことが浸透し、会員が計画的に退会を選択されるようになり、会費督促や、経理処理の事務処理負荷軽減に大きく寄与する結果となっている。

2020年1月1日現在、東京都中央区茅場町に本部の事務所を置き、地方会員の組織として北海道・東北・中部・北信越・近畿・中四国・九州に7支部がある。

(2) 理事会の活動状況

理事会は、当協会の活動の原点であり、毎回活動の諸案件について活発に議論し審議・決定された。

月日	審議事項
1/10	・第18期通常総会資料(事務局) ・役員総会役割分担(一次案)(事務局)
2/7	・事業報告・計画案(事務局) ・総会役割分担(事務局)
3/14	・理事役割分担について(事務局)
4/11	・審議事項なし
5/9	・審議事項なし
6/13	・審議事項なし
7/11	・審議事項なし
8月	休会
9/12	・会報編集要領の制定及び関連要項の改定について(会報部会)
10/10	・会報編集要領の制定について(会報部会)
11/14	・認定NPO法人の更新申請の是非について(事務局)
12/12	・会費未納の事由による会員除名処分(事務局) ・消耗品の予算超過(印刷関連消耗品費等) ・2020年度会計予算案(会計)

(3) 事務局

事務局(斉藤茂雄事務局長)は、入退会に関わる事務処理、会員管理システムの会員データ管理、及び協会全体の事務処理の効率化に取り組んだ。

会費納入期限を2月末とし、2015年度以来、3月に未納者への会費督促メールを発信し、また6月に督促状を送るとともに役員全員が協力して、電話による状況確認に加えて、会費お支払いをお願いする作業を行った。なお、会費請求書には、「会員サイト」へのログインIDを記載し、会員自身が、年会費の支払い状況を確認し、また住所変更等の訂正を行っていただくよう案内している。

また、2018年に引き続き1口3,000円以上のご寄附のお願いを実施し、100名を超える寄附者からのご協力をいただき、2015年6月3日の東京都「認定NPO法人」認定以降も、パブリック・サポート・テスト基準（広く市民からの支援を受けているかの判断基準）を維持することができた。寄附者が税額控除の適用を受けるための「寄附金受領証明書」を2019年12月の会費請求書発送時に同封した。

事務処理については、事務局、委員会、部会、研究会、支部の担当役員の交替にあわせて、各業務の流れを事務局サイト（一般非公開）にて情報共有するなどの効率化を図った。

[> 目次](#)

2. 委員会

2. 1. システム監査活性化委員会

(1) 体制

○委員長 : 小野修一会長

○メンバー : 各研究会、部会、委員会、担当の主査および各支部長

(2) 活動の概要

2019年度も、システム監査活性化委員会（通称、活性化委員会）として活動を行った。

小野会長を主査に、各研究会、部会、委員会、担当の代表者をメンバーに委員会を編成し、定期的に委員会を開催、活性化につながる施策について組織横断的な検討・意見交換を行うとともに、2016年度の総会において発表した協会のあるべき姿を示した「ビジョン」を具体的取組みに展開する活動を行った。各支部長からは、メールベースでご意見をいただいた。

2019年度に行った主な活動は次の通りであった。

- 1) 各研究会、部会、委員会、担当が行っている活動について、活性化委員会から提案などを出し、意見交換を行った。出された意見や提案は、各研究会等の主査が持ち帰り、各研究会等の活動に生かしている。
- 2) 会員の皆さんに協会および協会活動をよく知っていただき、研究会や部会に参加してもらう機会をすることを目的とした「会員向け活動説明会」を、2019年度も実施した（2019/10/22）。4回目の実施となる2019年度の説明会も20人強の会員が参加され、参加者の中から研究会等に参加したいという声も出された。

【赤本改定プロジェクト】

(1) 体制

○主査 : 松枝憲司 副主査 : 力利則

○メンバー : (編集者) 1部 : 大石正人、2部 : 豊田諭、3部 : 力利則、4部 : 吉田裕孝、5部 : 野田正勝
(執筆者) 齊藤茂雄、桜井由美子、島田裕次、野嶽俊一、原善一郎、松尾正行、山口達也
情報セキュリティ研、個人情報保護研、事例研、ITアセスメント研、法人部会、近畿支部
(他団体) システム監査学会、ISACA 東京支部他

(2) 活動の概要

2018年4月のシステム監査基準・管理基準の改訂を受けて、協会が発刊している「情報システム監査実践マニュアル第2版」を改定して第3版として出版する。また基準改訂に参加した他団体も執筆メンバーとして参画してもらうことで、より広い範囲での拡販につなげる。

(3) 活動実績（全体活動に関するもの）

- 1) 第1回赤本編集者会議 : 4月3日（水）18:30~19:30
- 2) 第2回赤本編集者会議 : 4月11日（木）20:00~21:30
- 3) 第3回赤本編集者会議 : 5月7日（火）19:00~20:30
- 4) 第4回赤本編集者会議 : 5月24日（金）18:30~20:30

- 5) 第5回赤本編集者会議：6月13日（木）20:00～21:30
- 6) 赤本執筆者キックオフ会議：6月24日（木）18:30～20:00
- 7) 第6回赤本編集者会議：7月25日（木）18:30～20:00
- 8) 第7回赤本編集者会議：8月29日（木）18:30～20:30
- 9) 第8回赤本編集者会議：9月26日（木）18:30～20:00
- 10) 出版社・編集者会議：10月7日（月）18:30～20:30
- 11) 第9回赤本編集者会議：11月5日（火）18:30～20:30
- 12) 第10回赤本編集者会議：11月28日（木）18:30～20:00会議後出版社に原稿を送付
- 13) 第11回赤本編集者会議：12月16日（月）17:00～18:30
 - ・2020年6月上旬の発刊を予定

> 目次

2. 2. ホームページ運営委員会

(1) 体制

- 委員長：齋藤由紀子
- メンバー：委員会・部会・研究会の各主査、支部長

(2) 活動の概要

- 1) 協会のホームページ <https://www.saaj.or.jp/> は、2019年度に以下の部門からの要請で、委託先に2018年度と同様に合計43回（月平均3.58回、2018年43回平均3.58回、2017年度45回月平均3.75回、2016年度64回平均5.4回）のサイト掲載を依頼した。そのほか、事務局でも28回（2018年度35回、2017年度16回、2016年度9回）の掲載を行った。

月	回数	依頼部門（委託先）	事務局作業	
1月	5回	月例1、認定1、研修2、近畿1	2回	総会、会報
2月	2回	月例1、近畿1	2回	総会、会報
3月	3回	月例1、研修1、近畿1	5回	貸借表、広告規程、法人会報、研修
4月	4回	月例1、事例2、近畿1	1回	会報
5月	2回	月例1、近畿1	1回	会報
6月	1回	事例1	1回	会報
7月	5回	月例1、認定1、事例1、セキ研1、近畿1、	2回	会報、出版
8月	3回	月例1、研修1、近畿1、	4回	定款、会報、会報HP、PMS
9月	5回	活性化1、月例1、研修1、近畿2	3回	会報、出版、PMS
10月	6回	月例1、事例1、研修3、近畿1	3回	会報、出版、PJA
11月	2回	月例1、事務局1	2回	会報、認定
12月	5回	月例1、認定委員会1、事例1、近畿2	2回	会報、認定
合計	43回	事務局2、活性化2、月例9、認定4、教育6、事例7、北信越1、近畿12	28回	会報13、出版3、総会2、認定2、PMS2、定款、貸借表、規程、法人、研修、PJA、

- 2) 事務局サイトでは、以下のコンテンツを公開している。

- ・6ヶ月で構築する「PMSハンドブックV1」様式集（V1購読者限定）
- ・6ヶ月で構築する「PMSハンドブックV2」様式集（V2購読者限定）
- ・総会資料 第1期（2002年2月）以降
<https://www.saaj.jp/04Kaiin/0302SokaiShiryu/02sokaiSiryo.html>
- ・会報 No1号（1988年2月号）以降 <https://www.saaj.jp/03Kaiho/0305kaihoIndex.html>
- ・月例研究会開催履歴 第1回（1988年3月）以降
<https://www.saaj.jp/04Kaiin/60SeminerRireki.html>
- ・役員の経費立替支払依頼書等の様式（役員限定）
- ・事務局業務マニュアル（事務局限定）

- 3) メールアドレス、メーリングリストの運用について

- ・saaj.or.jp ドメインのメーリングリスト：会員の連絡先情報を自動的に反映

- ・ saaj.jp ドメインのメールアドレス：役員の希望者に発行
- ・ saaj.jp ドメインのメールリングリスト：希望する部会、研究会用に設定

2019 年は、一部のメールアドレスを対象に、スパムメールが大量に到着するなどのトラブルが発生した。パスワードを推測困難なものに変更したが、変更直後においてもスパムメールが停止しなかったアドレスについては、メールアドレスそのものを変更した。また、複数のブラックリストに登録されてしまった個人のメールアドレスについては、メールサーバーが配信せずに削除するため、メールが到着しないなどのトラブルにより、メールアドレスを変更せざるを得ない状況も発生した。このような対策を講じた結果、2019 年 12 月現在、メールトラブルは鎮静化している。

[> 目次](#)

2. 3. 推薦制度運営委員会

(1) 体制

- 委員長：仲厚吉
- メンバー：松尾正行 三谷慶一郎

(2) 活動の概要

推薦制度運営委員会（以下推薦委員会）は、CSA 資格を有する者が所属する正会員団体又は CSA 資格を保有する正会員個人のうち「推薦台帳」に登録した者について、1 号推薦（外部からの推薦依頼）又は 2 号推薦（台帳登録者からの自己推薦依頼）を受けてシステム監査人の適任者を推薦している。

(3) 活動状況

2019 年度は、1 号推薦、2 号推薦とも推薦委員会からの推薦はなかったが、行政機関、地方公共団体等より委員等の推薦を依頼される場合や外部団体のシステム監査人募集等に協力する場合があります対応を行った。

[> 目次](#)

2. 4. 認定委員会

(1) 体制

- 委員長：舘岡均
- メンバー：常任委員・副委員長（鈴木信夫、斉藤茂雄、豊田諭）、委員（理事）

(2) 公認システム監査人、システム監査人補の、認定登録の状況

2019 年度の公認システム監査人及びシステム監査人補の新規応募者の認定登録状況は以下のとおりである。

- 1) 公認システム監査人は、春期8名、秋期12名で年度の合計20名
- 2) システム監査人補は、春期2名、秋期4名で年度の合計6名

公認システム監査人とシステム監査人補の年度の合計は 26 名であった（2018 年度は 21 名）。公認システム監査人は 2019 年度合計 20 名であった（2018 年度は 11 名、2017 年度は 10 名）。これまでと比較すると、2009 年から 10 年ぶりに 20 名になった。この結果 2019 年度末の累計では、公認システム監査人が 333 名、システム監査人補が 76 名、合わせて 409 名となり、累計は微増となっている。

面接審査は、東京地区 2 回、東北地区 1 回、北信越地区 1 回、中部地区 2 回、中四国地区 1 回、九州地区 1 回で実施した。1 組 2 名で土曜日あるいは日曜日に実施した面接審査には、地区の支部長、あるいは経験を積んだ面接委員の応援を得た。

(3) 公認システム監査人、システム監査人補の、認定更新の状況

2004 年度、2007 年度、2009 年度、2010 年度、2012 年度、2014 年度、2016 年度に認定登録された公認システム監査人及びシステム監査人補の更新状況は、公認システム監査人の失効者 7 名、システム監査人補の失効者 7 名であり、失効者数は低く抑えられた。

2014 年度まで認定資格更新時の各種書類は郵送にて提出していたが、詳細に検討を重ねて業務手順を改定し、2015 年度から電子メールによる提出を実施した結果、更新者にとって郵送料が不要となり、かつ利便性が良くなった。

(4) 公認システム監査人認定制度の特別認定制度の改定

システム監査技術者試験と関連性のある資格の所有者については、特別認定制度により、一定の教育を受けることなどを条件として同様に認定している。新たな所有資格を加えて、特別認定制度を2017年6月8日に改定した。具体的には、情報処理安全確保支援士、米国公認会計士、内部監査人、QMS主任審査員／エキスパート審査員、公認情報セキュリティ監査人／主任監査人を加えた。

その結果、2019年度新規認定者（公認システム監査人およびシステム監査人補）は合計26名であり、特別認定制度改定で加えた対象資格保有者は8名（内部監査人4名、情報処理安全確保支援士3名、米国公認会計士1名）であった。制度改定で加えた対象資格保有者の比率は31%であり、制度改定の効果が表れて来ている。

[>目次](#)

2. 5. CSA利用推進グループ

(1) 体制

- 主査 : 齊藤茂雄
- メンバー : 桜井由美子、カ利則、原純江、大西智（オブザーバ）

(2) 活動の概要

- 1) CSA利用推進グループの活動は2006年度から開始した。2019年度も従来の活動を踏襲し、主としてCSAフォーラムの開催を行った。
- 2) CSAフォーラムは、CSA・ASA認定取得者の相互研鑽、情報共有、フェイスtoフェイスの意見交換の場として開催しているが、2019年度は2回開催し通算で35回となった。2018年度に続き本部所在地の日本橋茅場町の貸し会議室にて実施した。
- 3) 例年実施している法人部会実施の自治体向けDMへの「CSAを入札条件に入れる依頼文」の同封、関東地区活動説明会での報告などを実施した。

(3) 活動の目的

- 1) 「CSAのプレゼンスを高める。CSAの社会的な評価や価値を高める。CSAの社会的な認知度を上げる。CSAになって良かったと思ってもらえる。CSA認定の付加価値を高める。CSAが社会的に認められ活動がしやすくなる」という活動目的を当初から掲げている。
- 2) 2019年度もCSAフォーラムの開催によりCSA同志の交流と輪を広げ、相互連携等を行うことを活動目標としてきた。

(4) CSAフォーラム活動

2019年度の開催内容は次表の通りであった。各回とも20～30名の参加者を得ることができた。

月日	開催回	テーマ	講師
3/28	第33回	「解説！日本の金融機関を狙うサイバー攻撃～アンダーグラウンドの活動実態に迫る」	邦本理夫氏
7/31	第34回	「IT業務処理統制の強化の必要性とその実現上の制度面での課題～我々システム監査人はどうあるべきか？～」	田淵隆明氏

[>目次](#)

2. 6. 教育研修委員会

(1) 体制

- 委員長 : 三輪智哉
- 委員 : 中山孝明、戸室佳代子、越野雅晴

(2) 活動の概要

特別認定講習実施機関（以下「講習実施機関」という）に委託している特別認定講習について、講習実施スケジュールの協会ホームページ掲載から、講習実施結果の評価・修了認定・修了証発行までの一連の活動を継続している。なお、講習実施機関は2018年度通り2社。

(3) 特別認定講習の概要

公認システム監査人(Certified Systems Auditor)」および「システム監査人補(Associate Systems Auditor)」の認定制度において、システム監査技術者試験と関連性のある資格の所有者については、特別認定制度が定める講習を履修し一定以上の成績を修めることにより、システム監査技術者試験の合格者と同様に取り扱われる。

詳細：公認システム監査人定制度 (<https://www.saaj.or.jp/csa/index.html>)

(4) 特別認定講習の実施状況

(受講修了者は延べ人数、修了証発行ベース)

講習コース	2019 年度実績		2018 年度実績	
	実施場所：実施月	受講修了者数	実施回数	修了者数
1) 論文・プレゼンテーションコース (1日コース)	4回 東京 3回：2月、3月、9月 大阪 1回：3月	7名	1回	6名
2) システム監査に関する知識コース (2日コース)	2回 東京 2回：9月、11月 大阪 0回	5名	3回	7名
3) 情報システムに関する知識コース (2日コース)	2回 東京 2回：9月、11月 大阪 0回	3名	3回	6名
計	8回	15名	7回	19名

(5) 運営管理状況

- 1) 実施された各講習について、講習実施機関の試験問題・採点要領・採点結果に問題はなく、いずれも修了証発行となった。(なお、講習実施機関では、初回の成績未達者に対して再テストが実施されている)
- 2) 実施回数や受講者数の2018年度比は、企業単位の申し込み状況によって変動するが、2019年度は、実施回数は8回となったものの、受講生数は2018年度の3/4となり、一回あたりの受講生数の減少がみられた。

[> 目次](#)

2. 7. 月例研運営委員会

(1) 体制

- 委員長 : 力利則
- 副委員長 : 櫻井俊裕
- メンバー : 林昭夫 柳田正 戸室佳代子 原純江 豊田諭 清水恵子 山口達也
福田敏博 竹原豊和
- アドバイザー : 仲厚吉 三谷慶一郎 木村裕一

(2) 活動の概要

月例研運営委員会(力利則主査委員長、櫻井俊裕副委員長)は、2017年3月から、円滑な組織運営のために「委員会」として活動(講演会名は従来通り「月例研究会」)し、2018年3月からは新任理事も含め、各自経験を重ねることによって、活動体制は充実してきている。

2019年度は、システム監査に関連する動向や重要な事項から、より興味を持たれるテーマを広げて、メンバー各位の発案と当番理事(毎回1名持ち回り)による講師の方々との交渉により、予定通りの開催ができた。2019年度は、10回の開催、年間835名(2018年度：906名)、平均参加者数は84名(2018年度：91名)となった。また、会員以外の方のご参加も毎回約20%あり、関心の広がりや新会員の入会にも貢献している。

(3) 開催報告 (会場：機械振興会館 ホール)

回	開催日	2019年「月例研究会」開催実績 テーマ/講師	参加者
239	1/22 (火)	今、振り返る安対基準第9版 公益財団法人 金融情報システムセンター 監査安全部 主任研究員 坂上 昇 氏 研究員 宮島 吉昭 氏	91名
240	3/12 (火)	次世代の会計業務と会計監査 (株) JBA ホールディングス 代表取締役/グループ CEO 脇 一郎 氏	78名

241	4/25 (木)	サイバーセキュリティの現状と課題 プロモントリー・フィナンシャル・ジャパン 代表 江見 明弘 氏	108名
242	5/21 (火)	プライバシー・個人情報保護論議の歴史と今後の課題 個人情報保護委員会 前委員長 堀部 政男 氏	82名
243	6/17 (月)	JUAS 「企業 IT 動向調査 2019」 一般財団法人 日本情報システム・ユーザー協会 常務理事 セキュリティセンター 宮下 清 氏	77名
244	7/22 (月)	システム監査の機能の変革と今後の課題 法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科教授 システム監査学会会長 石島 隆 氏	94名
245	9/11 (水)	データ流通システムの概要説明とシステム監査、セキュリティ監査への 期待と課題について データ流通推進協議会 技術基準検討委員会 副委員長 小池 博 氏	66名
246	10/8 (火)	第 1 部 AI について監査人が考慮すべきこと (監査人の考慮点) SAAJ 副会長 月例研究会主査 力 利則 第 2 部 AI 時代における監査の取組みとポイント (監査の具体的な取組み方) ISACA 東京支部調査研究委員 AI 研究会、システム監査制度研究会 AI/IoT 分科会 前財務総括会長・理事 稲垣 敦夫 氏	101名
247	11/8 (金)	2025 年の崖問題と DX 推進に向けた政策展開 経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課 (IT イノベーション課) DX 制度企画チーム 法制企画担当補佐 和田 憲明 氏	69名
248	12/13 (金)	企業不正に関わる心理学的考察 帝京大学 大学院 経済学研究科・経済学部経営学科 教授 博士(経営学)、公認不正検査士 (CFE)、公認内部監査人(CIA) 伍井 和夫 氏	69名

(4) 講師について

講師の方々の所属は、官庁、行政法人2名、関連団体4名、民間2名、大学2名、SAAJ1名と、各分野での第一人者の方々に来ていただきました。

(5) 2019 年度の取り組み

- 1) 委員長、副委員長、担当理事の就任後4年目となり、また新規に担当理事になられた方々も、月例研の当番理事としての役割の経験を積むことができ、月例研の講師依頼、事前調整、案内作成、HP更新、メール配信、当日役割連絡および分担、当日司会、会報原稿依頼、会報原稿掲載、毎回会計報告等、順調に進めることができるようになってきた。また運営マニュアルもその都度、更新が進むように努めてきた。さらに会長並びに事務局にも十分な支援を頂き、月例会としてのより円滑な運営ができた。
- 2) 2019年度は、時代の動きや変革に応じたテーマについて各界の第一人者を講師にお呼びし、安対基準、会計システム、サイバーセキュリティ、個人情報保護、データ流通、AI、DX、不正等の最新の取り組みをご講演頂き、合わせてシステム監査に望む期待や課題にも触れて頂き好評であった。
- 3) 2019年度も、2018年度同様SAAJと関連するシステム監査学会、ISACA、ITガバナンス協会等のご協力を得て、講師及び参加者としての連携を維持することができ、感謝している。
- 4) 会員の参加費1,000円を維持し、会員の参加を促した。これは会員増強活動の一環にもなっている。またシステム監査学会、ISACA、日本セキュリティマネジメント学会、経営情報学会等、関連する諸団体に「月例研究会」の案内をお送りして、参加者の増加を図ることができた。
- 5) 「月例研究会」には非会員の方々にも参加していただける機会(毎回20%程度)であり、会員増強に向け会員勧誘の案内とSAAJパンフの配布と開会前の時間に協会活動のPRスライドを上映した。
- 6) 2019年度のテーマ&講師選定は、「月例研究会」担当理事の会合(理事会終了後原則毎回開催)において、「月例研究会」参加者アンケート調査、最新のIT動向、システム監査の話題・課題等に基づき、各回の「月例研究会」の開催テーマと講師の選定を進めた。
- 7) 当日の資料については、講師の承諾が得られた場合、案内した期間内(講演日の約1週間前から講演翌日まで)に、電子データ資料をWEB画面から参加者がダウンロードして各自に持参いただくことにした。電子媒体での提供が困難な場合は従来通り当番理事側で資料の印刷を行い、当日手渡しとした。
- 8) 各支部には資料とともに当日の録画ビデオを提供(講師の許可を得た上で)して、各支部主催の研究会等で積極的に活用して頂いている。

- 9) 月例研として会員の意見を聞きたいということが2018年度からの課題であったが、2019年度は全会員向けのアンケートを11月&12月に実施することができた。約130名という多くの会員からの回答を得ることができ、今後の月例研の活動に役立たせることを考えている。
- 10) 講師も含め「月例研究会」参加者との交流を図るために、「月例研究会」開催後に懇親会を毎回開催した。懇親会参加者は毎回10数名であるが、意見交換や相互交流等を積極的に行うことができた。理事以外の会員との懇親も深まり、SAAJ会員の意識向上に役立っている。

[>目次](#)

3. 部会

3. 1. 会報

(1) 体制

- 主査 : 桜井由美子
- 副主査 : 安部晃生、越野雅晴
- メンバー : 竹原豊和、豊田諭、福田敏博、柳田正、山口達也
- 編集支援 : 会長、各副会長、各支部長

(2) 活動の概要

「日本システム監査人協会会報」は、会員やシステム監査人のコミュニケーションの場として、会報部会メンバーで編集し発行している。会報は、電子版、メール版を月次発行し、読者がダウンロードして印刷できるようにしている。

(3) 会報部会の概要

会報は、1988年2月にNo1号が発行された。当時は、隔月発行で紙面にて会員に郵送していたが、会報の利便性を考慮し、2009年6月（No108号）から電子版発行に切り替えている。さらに2017年11月に、紙面で発行した会報を第1号からPDF化し、会報バックナンバーとして、過去に発行された会報をすべて閲覧可能とした。このことによりSAAJ30年の歴史が見えるようになった。

2011年から会報の月次発行を実現するとともに、タイムリーな情報発信ができるように陣容を整え、会報編集委員の思いを込めて、会報の年間テーマを選定して投稿を呼びかけてきた。2019年度の年間テーマは「システム監査人のターニングポイント」とした。システム監査の過去、未来においてターニングポイントとなった「外部環境の変化」、「技術的な変化」、「今後予想されること」を焦点に議論し、お互いの知見や意見を交換することを目的として設定した。より多くの方からより多く投稿いただきたくテーマを設定してきているが、テーマを設定することで自由な投稿を抑制してしまうことも懸念されるので、テーマ以外の投稿も大歓迎である旨を記事の募集時にアナウンスしてきた。

会報は、特定刊行物としてNo1号から国立国会図書館へ納本され、一般の検索、閲覧に供されている。会報の記事には、匿名の「めだか」記事、「記名の投稿」記事、「本部報告」、「支部報告」等がある。「めだか」記事は、匿名投稿者の個人的な意見表明でありSAAJの見解ではないことをうたっており、誹謗中傷でないかぎり誰でも投稿でき、外部へ思い切った発言を行うことができる。かたや、「記名投稿」記事は、会員番号、氏名、所属部会・研究会、支部をあきらかにすることで、会員やシステム監査人の履歴書に掲載する記録になりえるものとなっている。「本部報告」は、各部会、研究会等の研究成果の発表の場として、また「支部報告」は、各支部での活動報告、定例研究会、合同研究会等の内容の記録ともなっている。

(4) 2019年に発行した会報の内容

会報の編集作業は、8名の編集委員が毎月交替で行っている。

該当月の編集が終了すると次月号編集担当宛に「引継書」を作成し、引き継ぎに漏れがないように取り計らっている。また随時、会長、各副会長、各支部長からのサポートを受けている。2019年1月号（2018年12月25日発行）から2019年12月号（11月25日発行）の間に投稿されたものは以下のとおりである。

1) 巻頭言

毎月、会長及び副会長から持ち回りで投稿していただいている。

1月号：小野修一（会長）【平成最後の年、平成31年の新年を迎えて】

- 2月号：齊藤茂雄（副会長）【会員増強で新たな時代を】
 3月号：安部晃生（副会長）【システム監査のターニングポイント－新時代のシステム監査】
 4月号：斎藤由紀子（副会長）【『GDPR』と『個人情報保護法』のギャップ】
 5月号：舘岡均（副会長）【「令和」における当協会、およびCSA/ASAへの期待】
 6月号：力利則（副会長）【「令和」元年に思うこと～人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ～】
 7月号：松枝憲司（副会長）【情報システム監査実践マニュアル（通称赤本）の歴史】
 8月号：三谷慶一郎（副会長）【DX推進ガイドラインとシステム監査】
 9月号：齊藤茂雄（副会長）【認定NPO法人の認定更新を迎えるに当たり】
 10月号：安部晃生（副会長）【アジャイル型監査？－システム監査人のターニングポイント－】
 11月号：斎藤由紀子（副会長）【macOSの利用】
 12月号：舘岡均（副会長）【「令和」における当協会、およびCSA/ASAへの期待】

2) 投稿記事

編集委員	【めだか】(めだかネーム)	記名投稿
No.214 2019/1月号 藤澤博	【システム監査人のターニングポイント】 (空心菜)	【基礎自治体のCIO補佐官というセカンドキャリアのすすめ】(その3) CIO補佐官経験者
No.215 2019/2月号 越野雅晴	【システム監査人のターニングポイント】 (空心菜)	【時事論評 情報漏洩前提社会をどう生きるか】 会員番号 0707 神尾博
No.216 2019/3月号 安部晃生	【システム監査人のターニングポイント】 (空心菜)	【金融機関におけるこれからの内部監査（システム監査のターニングポイント）】 会員番号 1342 安部晃生 【越境移転個人情報の取扱いとシステム監査人の対応】 会員番号 557 仲厚吉
No.217 2019/4月号 桜井由美子	【システム監査人のターニングポイント】 (空心菜)	【エッセイ 酒呑童子】 会員番号 0707 神尾博 【総会特集】
No.218 2019/5月号 竹原豊和	【システム監査人のターニングポイント - グローバルを考える】 (空心菜)	【IT業務処理統制の強化の必要性とその実現上の制度面での課題】～某自動車会社の事案から 会員番号 1644 田淵隆明 【「IT会計帳簿論～IT会計帳簿が変える経営と監査の未来～」中村元彦著を読んで】 会員番号 0008 鈴木信夫 【システム監査とワインテイस्टィングの類似性について】 会員番号 1448 宮崎雅年
No.219 2019/6月号 豊田諭	【システム監査人のターニングポイント - ローカルを考える】 (空心菜)	【「令和」元年に思うこと～人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ～】 会員番号 0281 力利則 【IT業務処理統制の強化の必要性とその実現上の制度面での課題】(2)～リース取引～ 会員番号 1644 田淵隆明 【エッセイ】逆柱 会員番号 0707 神尾博
No.220 2019/7月号 福田敏博	【システム監査人のターニングポイント - データを考える】 (空心菜)	【IT業務処理統制の強化の必要性とその実現上の制度面での課題】(3)～2021年新会計基準① 会員番号 1644 田淵隆明
No.221 2019/8月号 柳田正	【システム監査人のターニングポイント - デジタルを考える】 (空心菜)	【IT業務処理統制の強化の必要性とその実現上の制度面での課題】(4)～2021年新会計基準② 会員番号 1644 田淵隆明 【エッセイ】件 会員番号 0707 神尾博
No.222 2019/9月号 山口達也	【システム監査人のターニングポイント - AIを考える】 (空心菜)	【IT業務処理統制の強化の必要性とその実現の制度面での課題】(5)～2021年新会計基準③ 会員番号 1644 田淵隆明

No.223 2019/10月号 安部晃生	【システム監査人のターニングポイント - ブロックチェーンを考える】 (空心菜)	【内部監査の成熟度 — 金融庁「金融機関の内部監査の 高度化に向けた現状と課題」から】 会員番号 1342 安部晃生 【エッセイ「玉藻前」】 会員番号 0707 神尾博 【IT 業務処理統制の強化の必要性とその実現の制度面 での課題】(6)～2021年新会計基準④ 会員番号 1644 田淵隆明
No.224 2019/11月号 越野雅晴	【システム監査人のターニングポイント - DFFT を考える】 (空心菜)	【【IT 業務処理統制の強化の必要性とその実現の制度面 での課題】(7)～2021年新会計基準⑤ 会員番号 1644 田淵隆明 【6 か月で構築する[個人情報保護マネジメントシステ ム実施ハンドブック]第 2 版好評発売中】 会員番号 1760 斎藤由紀子
No.225 2019/12月号 桜井由美子	【システム監査人のターニングポイント - UTM を考える】 (空心菜)	【リモートワーク/テレワーク ～Empowered JAPAN 2019 in 佐賀～】 会員番号 1017 中溝統明 【(エッセイ) 台風 19 号による被災からの BCP 見直 し】 会員番号 2725 藤田博史 【IT 業務処理統制の強化の必要性とその実現上の制度 面での課題】(8)～2021年新会計基準⑥ 会員番号 1644 田淵隆明 【(エッセイ) 逢魔時】 会員番号 0707 神尾博

3) 「本部報告」と「支部報告」

【本部報告】(会報掲載順で、報告のあった部会・研究会等)。

- ・月例研究会 : 8 件
- ・活性化委員会 : 1 件
- ・CSA 利用推進グループ : 3 件
- ・法人部会 : 1 件
- ・個人情報保護監査研究会 : 2 件
- ・プロジェクト監査研究会 : 1 件

【支部報告】(北から南の順で、報告のあった支部)

- ・北海道支部 : 1 件
- ・北信越支部 : 4 件
- ・近畿支部 : 7 件
- ・西日本支部合同研究会 : 1 件

(5) 2019 年の会報アワード

会報アワードは編集委員の選考によって下記から選定し、通常総会において発表する。

「めだか」「記名投稿記事」「本部報告」より各 1 件、「支部報告」より 2 件を選出する予定である。

(6) 2019 年の投稿論文

該当なし。

なお、「論文」は、現状、論文査読の基準や体制が十分でなく、投稿があった場合、適切な対応がとれない可能性が高いことから、当面募集を中止することを 2019 年 9 月度理事会で決定し、HP で周知した。

[> 目次](#)

3. 2. 法人部会

(1) 体制

○主査 : 山口達也

○主たる活動メンバー: 小野修一、齊木孔二、齊藤茂雄、真鍋直緒、矢野一男、佐々野未知、加佐見明夫

(2) 法人部会活動の目的

法人部会は、システム監査を業とする企業、およびシステム監査を実施し情報環境の健全化を図ろうとする企業が、協力して活動することによって、システム監査の普及・啓発を図ることを活動の目的としている。またこのような活動を通して会員企業の事業の発展に寄与することを目的としている。

(3) 法人正会員 28社 (2019年末現在)

- 1) 入会：1社 (株) サンエイ
- 2) 退会：3社 (株) イースティル、(株) トレアロウフォース、(株) フレクサス・セブン

(4) 活動内容

- 1) 定例会を、原則毎月第2火曜日 (除く2月、8月) に開催することとし、計9回開催した。
2019年：2/27、4/9、5/14、6/11、7/9、9/10、11/12、12/10 2020年：1/14
- 2) 「関東地区活動説明会」にて法人部会の紹介を行った。
- 3) 「自治体向け情報セキュリティセミナー」の内容を見直し、2019年度版として案内した。
セミナー案内DMを、全国都道府県、関東圏の市以上、および東京都23特別区の自治体に送付した。
- 4) FISA (情報システム・ユーザー会連盟) 主催のシステム監査講演会 (2019年10月開催) で企業団体向けセミナー案内、小冊子、公認システム監査人のご案内等の資料を配布した。
- 5) 会報における法人会員紹介記事を再開するにあたり、記事作成に関するガイドラインを作成し、2020年1月号より紹介記事の掲載を再開した。
- 6) 定例会にて、会員同士のシステム監査の普及・ビジネス化についての情報交換を行った。

[> 目次](#)

4. 研究会

4. 1. システム監査事例研究会

(1) 体制

- 主査 : 野田正勝
- メンバー : 48名 (2019年12月現在)

(2) 活動の概要

1) 事例研究会定例会

- ・開催日：原則毎月第一水曜日 19:00～20:30
- ・開催場所 SAAJ 協会事務所 (茅場町)
- ・内容：11回開催 延べ出席者数 34名

	開催月日	参加人数	内容
1	1月10日	4名	2018年度のまとめと2019年度の活動方針
2	2月13日	2名	直近の活動状況
3	3月6日	2名	直近の活動状況
4	4月3日	5名	北欧視察レポート：医療分野のブロックチェーン
5	5月8日	4名	課題解決セミナー教材レビュー
6	6月5日	1名	中止
7	7月3日	3名	判例から見るプロジェクトマネジメントにおける発注者側の責任
8	8月7日	4名	赤本改定第5部1・2章の変更点レビュー
9	9月4日	4名	赤本改定第5部1・2章の変更内容レビュー
10	10月2日	2名	赤本改定第5部1・2章の変更内容レビュー
11	11月6日	2名	2019年度のまとめと2020年度の活動方針
12	12月4日	2名	2019年度のまとめと2020年度の活動方針

2) システム監査普及サービス

- ・2019年度は1社より照会があり面談をした。現在、先方で検討中。
- ・最近の最終実績であるj社については、教材化を検討しているが、中山氏より進め方の提案があり2019年度の活動の中心としたかったが実施には至らなかった。

3) システム監査実務・実践セミナー

- ・2019年度は実務セミナー4日間コースを2回、実践セミナー2日間コースを2回開催した。1996年から実践・実務セミナーは通算67回の開催実績となった。
- ・実務セミナー4日間コースは、3月の土日開催コースは安定した人数での開催が出来たが、9月に開催した平日日帰りコースは最小催行人員割りで急遽会場を変更しての開催となった。
- ・実践セミナー2日間コースは、7月は12名と盛況だったが、12月は6名と振るわなかった。

	通算	2019年開催日	参加人数	内容
1	第64回	3/2・3、 3/16・17	受講者6名、 講師2名 事務局1名	第33回実務セミナー 平日日帰り4日間コース 場所：東京大久保 関東ITソフトウェア健保会館
2	第65回	7/17・18	受講者12名、 講師3名	第34回実践セミナー 平日日帰り2日間コース 場所：東京晴海 ホテルクラシア晴海
3	第66回	9/5・6、 9/19・20	受講者4名、 講師2名	第34回実務セミナー 平日日帰り4日間コース 場所：東京新宿 スペースコミノバ東新宿
4	第67回	12/19・20	受講者6名、 講師2名 事務局1名	第35回実践セミナー 平日日帰り2日間コース 場所：東京茅場町 NATULUCK 茅場町

4) 事例に学ぶ課題解決セミナー

- ・年3回の開催を予定していたが、5月の1回のみの開催となった。月例定例会で検討した教材アイデアから2事例を教材化し実施できたが、後が続かなかった。

	通算	2019年開催日	参加人数	内容
1	第22回	5/25	受講者13名、 講師2名	事例講義「地方自治体の基幹システムマイグレーションの挫折」 事例講義「証券取引所の株式売買システム障害」 場所：東京大久保 関東ITソフトウェア健保会館

[> 目次](#)

4. 2. 情報セキュリティ監査研究会

(1) 体制

- 主査 : 舘岡均
- メンバー : 斉藤茂雄、大西智、豊田諭、村上進司、福田敏博、山口達也、竹原豊和、佐藤雅英(東北支部)、佐々木訓(東北支部)
- オブザーバ : 仲厚吉、櫻井俊裕、柳田正、畑野元、佐々野未知、中山孝明

(2) 活動の概要

2019年度は2018年度のメンバーにさらに新メンバーを加え、継承して活動を進めた。

1) 活動の進め方

- ・ITにおいては、クラウド、IoT、FinTech、AI等々のように、専門技術の高度化ならびに社会における活用範囲の広がり、ますます速いスピードで進展している。また標的型サイバー攻撃等による甚大な被害が頻繁に発生し大きな脅威になっている。この状況下で、当研究会は次のように活動を進めた。
 - 各メンバーがトピックス、現在あるいは今後着目する調査/研究内容、などを持ち寄り、ITおよびセキュリティについて現状および動向を俯瞰的に把握する。
 - 課題等を整理して、各メンバーの得意分野、興味を持つ「個別の研究テーマ」を研究する。
 - 各メンバーがお互いの考え方を尊重することをベースとするコミュニケーションを図り、全員参加型の活動を目指す。
- ・さらには、次のようなことを考慮して活動を進めた。
 - 各業界、諸団体、専門分野等のそれぞれをセグメンテーションし、メンバーが分担して調査する。
 - 必要に応じて、知見者(他団体、SAAJ会員など)にご参加頂き活動レベルの向上を図る。
 - CSAフォーラムおよび他の研究会との連携を図る。
- ・2019年度の「個別の研究テーマ」は、「情報セキュリティ関連の基準、ガイドライン等の発行、改定の動向調査」であり、具体的には、「情報セキュリティ白書2019」、「サイバーセキュリティ2019

(年度報告、計画)」、「サイバーセキュリティ経営ガイドライン Ver 2.0 実践のためのプラクティス集」、「サイバー・フィジカル・セキュリティ対策フレームワーク (CPSF)」、「クラウドサービスの安全性評価に関する検討会 とりまとめ(案)」を研究した。

- ・「情報システム監査実践マニュアル改定プロジェクト (赤本改定プロジェクト)」に参加し、第1部3章、4章の情報セキュリティにかかわる部分を当研究会メンバーが執筆した。
- ・「(2019年度)関東地区主催会員向け SAAJ 活動説明会」(2019年10月26日開催)にて、「クラウドセキュリティについて」を報告(山口達也研究員)。

2) 定例研究会

- ・定例研究会は月1回(平日)18:30~20:30にSAAJ協会事務所で開催した。

3) 2019年度の定例研究会活動実績

月日	開催回	テーマ
1/30	第1回	<2019年度活動方針> ・2019年度活動方針、計画、役割/担当、活動スケジュール概略、etcを検討 「1月9日修正版「サイバー・フィジカル・セキュリティ対策フレームワーク(案)に対する意見公募」(2019年1月30日、経済産業省)
2/28	第2回	<活動テーマ> 「内部監査とシステム監査の融合への取り組みについて」 (システム監査普及連絡会30周年記念誌、2018年12月20日発行) 上田徹氏 講義
3/27	第3回	<トピックス> 「サイバーセキュリティ経営ガイドライン Ver2.0 実践のためのプラクティス集」 (2019年3月25日、IPA) 「情報セキュリティ10大脅威 2019」(2019年1月30日、IPA)
4/22	第4回	<トピックス> ・「サイバー・フィジカル・セキュリティ対策フレームワーク (CPSF)」(2019年4月18日、経済産業省)
5/28	第5回	<トピックス> 「インターネットの安全・安心ハンドブック Ver4.00」(1月18日(金)、内閣サイバーセキュリティセンター (NISC))
6/26	第6回	<トピックス> 情報セキュリティ関連基準ガイドラインの改定経緯調査 <赤本改定プロジェクト> 赤本改定・第1部3章、4章の情報セキュリティにかかわる部分の当研究会メンバー執筆部分の方針、分担を検討
7/23	第7回	<トピックス> 「サイバーセキュリティ対策情報開示の手引き」(2019年6月28日総務省) <赤本改定プロジェクト> 赤本改定・第1部3章、4章の情報セキュリティにかかわる部分の当研究会メンバー執筆部分の企画詳細、方針詳細を検討
8/28	第8回	<赤本改定プロジェクト> 赤本改定・第1部3章、4章の情報セキュリティにかかわる部分の当研究会メンバー執筆部分のレビュー
9/20	第9回	<赤本改定プロジェクト> 赤本改定・第1部3章、4章の情報セキュリティにかかわる部分の当研究会メンバー執筆部分のレビュー
10/23	第10回	<トピックス> ・「情報セキュリティ白書 2019」(2019年7月10日、IPA) ・「サイバーセキュリティ 2019」(2019年5月23日、サイバーセキュリティ戦略本部) <赤本改定プロジェクト> 赤本改定・第1部3章、4章の情報セキュリティにかかわる部分の当研究会メンバー執筆部分のレビュー
11/26	第11回	<トピックス> ・「ES-C2M2 (電力分野用セキュリティマネジメント成熟度モデル)」 (2019年10月23日、IPA) <活動報告> ・「(2019年度)関東地区主催会員向け SAAJ 活動説明会」(2019年10月26日開催)にて、「クラウドセキュリティについて」を報告。(山口達也研究員)

12/23	第12回	<p><2019年度活動まとめ、2020年度活動方針></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度研究会の活動まとめ、2020年度研究会活動の方針についての検討<トピックス> ・「個人情報保護法 いわゆる3年ごと見直し 制度改正大綱」の公表とパブコメ募集（1月14日まで）（2019年12月13日 個人情報保護委員会） ・「クラウドサービスの安全性評価に関する検討会取り纏め（案）」の公表とパブコメ募集（12月27日まで）（2019年12月11日 総務省） ・「フィッシングによるものとみられるインターネットバンキングに係る不正送金被害の急増について（全銀協等と連携した注意喚起）」（2019年12月19日 警察庁） ・「[Emotet] と呼ばれるウイルスへの感染を狙うメールについて」（2019年12月11日、IPA）
-------	------	---

[>目次](#)

4. 3. ITアセスメント研究会

(1) 体制

○主査 : 松枝憲司

○メンバー : 小野修一、桜井由美子、清水恵子、力利則、豊田諭、仲厚吉、成田和弘、野嶽俊一、原善一郎、松尾正行

(2) 活動の概要

ITサービスの提供者と利用者双方における適切な管理を維持・向上させる活動を、ITアセスメントとしてとらえて、それに必要な活動領域に関する研究を行うことを目的に、新たにメンバーを募集して2016年10月に従来の「システム監査基準研究会」から「ITアセスメント研究会」に衣替えし活動している。

(3) 研究項目

1) ITガバナンスに関連する事項

ISO38503 (Assessment of the governance of IT) のISO化の支援

- ・6/3-6/7 パリで開催されたISO国際会議参加した。(松尾)
- 38503のCD (CommodityDraft) を提出し、CD2に進むことが承認された。
- ・10/21-25 韓国で開催されたISO国際会議参加した。(松尾)
- CD2の検討状況等について報告し継続してすすめることとなった。
- ・ISO会議の間は、Web会議により1~2週間毎に各国メンバーとの検討を進めた。

2) 新システム監査基準・管理基準の改訂、活用等

- ・赤本改定プロジェクト(別途報告)を立ち上げて「情報システム監査実践マニュアル第3版」の改定作業を取りまとめた。
- ・システム監査・管理基準連絡会議(基準改訂に参画した団体を中心に基準の活用を目的に設けた連絡会議であり経済産業省からもオブザーバとして参加している)が6回(1回/2ヶ月)開催され、SAAJとして参加した。(カ・松枝)

(4) 研究会の開催

テーマ「ISO38503」と「システム管理基準」別に開催し、合計で1月より12回研究会を開催した。

[>目次](#)

4. 4. 個人情報保護監査研究会

(1) 体制

○主査 : 斎藤由紀子

○メンバー : 五味巻二、斎藤茂雄、坂本誠、柴田幸一、仲厚吉、永井孝一、成田佳應、林昭夫、藤澤博、村上進司、吉谷尚雄

(2) 活動の概要

個人情報保護監査研究会(斎藤由紀子主査)は、2014年12月10日に同文館出版社より発刊した、6か月で構築する「個人情報保護マネジメントシステム実施ハンドブック(以下「PMS実施ハンドブックV

1」) のPMS 様式集ダウンロードサイトについて、2019年8月15日の「3320 法令・指針・規範集」の改定を最後に更新終了したが、引き続き PMS 実施ハンドブックV1 読者向けに、公開を継続している。

2017年12月20日に JIS Q 15001 : 2017 が公表された後、プライバシーマーク(以下 P マーク)審査への影響について研究活動を行っていたが、2019年7月20日に「PMS 実施ハンドブックV2」を同文館出版社より発刊した。V1 と同様に、新規 P マーク取得事業者だけでなく、更新申請事業者、P マークコンサルタントの方にも活用いただいている。

月次定例会では、上半期は「PMS 実施ハンドブックV2」の発刊に向けての校正作業が主となり、下半期は、「PMS 実施ハンドブックV2」様式集ダウンロードサイトの改定、個人情報保護監査サービスの実施、EU 一般データ保護規則 (GDPR) の十分性認定に基づく個人情報保護法の改定予測などを中心に、研究会活動を行い、各メンバーのスキルアップを図った。

(3) 2019 年の活動状況 (定例研究会等開催実績)

月日	開催回	テーマ
1/9	第1回 (臨時)	・「PMS 実施ハンドブックV2」(0校) 第17章～第20章読み合わせ
1/16	第2回	・「PMS 実施ハンドブックV2」(0校) 第21章～第24章読み合わせ ・ダウンロード用規程、様式の確認
2/20	第3回	・2/1「PMS 実施ハンドブックV1」ダウンロードサイト様式改定 「プライバシーマーク申請書類サンプル(2019年1月24日版対応)」 「3320 法令・指針・規範集」 ・「GDPR 補完的ルール」対応のため「管理者」「取扱者」設置が必要な事業者： ①EU の取引先、子会社、支店から、個人データ・個人情報の提供、委託を受けている。 ②EU から個人データ・個人情報の提供、委託を受けた事業者から、提供を受けている。
3/18	第4回	・「PMS 実施ハンドブックV2」(初校) 校正作業 ・個人情報保護監査の依頼 (D 社) ・4/14～16：合宿 (安曇野、飯田)
4/17	第5回	・「PMS 実施ハンドブックV2」(初校) 校正作業 ・個人情報保護法 2020 年改定の内容について (GDPR 十分性の確保)： 利用停止権、個人情報の範囲拡大 (Cookie、位置情報、仮名化情報など) ・個人情報保護監査の契約締結 (D 社)
5/22	第6回	・「PMS 実施ハンドブックV2」(2校) 校正作業
6/20	第7回	・「PMS 実施ハンドブックV2」(最終校) 校正作業 ・「情報システム監査実践マニュアル」第3版 (赤本V3) 原稿作成
7/17	第8回	・「PMS 実施ハンドブックV2」84 の規程と様式ダウンロードサイト構築 ・7/20「PMS 実施ハンドブックV2」発売。272 ページ、本体 3,200 円 協会ホームページより「特別頒布」3,000 円(税・送料込) 開始
8/21	第9回	・8/15「PMS 実施ハンドブックV1」ダウンロードサイト最終更新。サイトは継続 「3320 法令・指針・規範集」 ・「PMS 実施ハンドブックV2」会報掲載 ・「PMS 実施ハンドブックV2」様式を xlsx 形式から、xls 形式に変更
9/18	第10回	・9/1「PMS 実施ハンドブックV2」ダウンロードサイト更新案内 監査計画書兼報告書、PMS 体制、法令規範集、PMS 年間計画書、 P マーク認証取得スケジュール、ネットワーク構成図、緊急連絡網、 適合性監査チェックリスト、 ・D 社個人情報保護監査 9/19～20 (2 日間、2 箇所) ・新メンバー：3名
10/16	第11回	・10/1「PMS 実施ハンドブックV2」「特別頒布」改定 3,100 円(税・送料込) ・「PMS 実施ハンドブックV2」見直し作業開始
11/20	第12回	・10/26 会員向け活動説明会 講師：斎藤由紀子 テーマ「6ヶ月で構築する「PMS ハンドブック」第2版の出版について」 ・11/1「PMS 実施ハンドブックV2」ダウンロードサイト更新案内 緊急連絡網、法令規範集、プライバシーマーク取得スケジュール ・新メンバー：1名
12/18	第13回	・11/29「個人情報保護法 いわゆる3年ごと見直し 制度改正大綱(骨子)」公表 ・11/29 リクナビ問題、データ利用企業に行政指導について公表 ・11/29 匿名加工情報に関する問い合わせ対応報告 ・12/1「PMS 実施ハンドブックV2」ダウンロードサイト更新案内 個人情報保護方針、個人情報の取扱いについて ・2020 年活動計画(案)検討

4. 5. プロジェクト監査研究会

(1) 体制 :14名(本部9名、支部5名)

○主査 :原田憲幸(理事)

○監査全体チーム :結城健一(リーダ)、和手信泰、片山邦彦、杉谷博史[近畿]

○企画/完了監査チーム:細川健一(リーダ)、森内正美(サブリーダ)、園田博、田村修、
原善一郎[中部]、栗山孝祐[中部]、梶川明美[北信越]

○設計開発監査チーム :大野勇進(リーダ)、加藤智康[中部]、原田憲幸

(2) 活動の概要

1) テーマ:「システム開発を成功させるプロジェクト監査」

2) 目的 :・「システム開発の大トラブルを防止するプロジェクト監査」のガイドラインを作成する
・監査の現場で直ぐに役立つ実践的ツールを提供する
・成果をまとめ、出版する

3) 活動状況:

2018年3月出版の本「発注者のプロジェクトマネジメントと監査」で、監査について12章~15章で解説した。しかし、その内容は簡素で、監査の現場で活用するには物足りないレベルであった。このため、この4つの章をベースに更に深掘りして、直ぐに役立つ監査のガイドラインと実践的なツールを提供すべく、2018年以降、検討を継続した。

検討は、前項の体制で示すように、テーマ別に3チームに分かれ、チームリーダを中心に進めた。また、遠隔地の支部メンバーはインターネットTV会議で参加した。2018年以降、全体会議を延べ20回開催したほか、3つのチーム毎の検討会を繰り返し行った。例えば、設計開発チームは、毎週土曜夜にインターネットTV会議で議論した。

こうして、チーム別検討の成果を、毎月の全体会議で討議し、成果をまとめ、9月に0版をSAAJ理事会に報告し、理事メンバーに開示した。なお、その後の修正を吸収した1版を正月明けにまとめ、これを出版原稿とし、2020年上期の出版を計画している。

○全体会議開催状況(2019年)

回	開催日	概要
第9回	1月18日(金)	・プロジェクトリスクと監査、プロジェクト監査の種類、監査実施プロセス、監査人に求められるスキル、監査ガイドラインの構成(全体チーム) ・初期品質のプロジェクト監査について(完了チーム)
第10回	2月15日(金)	・プロジェクト監査ガイドライン draft について(全体チーム) ・企画/完了/総合テストに関する監査について(企画完了チーム)
第11回	3月15日(金)	・自己点検リストを用いたプロジェクト監査フローについて(主査) ・総合テストの監査、チェック表について(設計開発チーム)
第12回	4月19日(金)	・プロジェクト監査の目的、成果物について ・プロジェクト監査の委託~報告の流れについて ・設計開発のプロジェクト監査について(設計開発チーム)
第13回	5月17日(金)	・成果物一覧の整理、提供手段 ・「プロジェクト計画審議事前審査」監査項目 監査の観点(企画完了チーム)
第14回	6月21日(金)	・監査チェックシートについて(主査) ・企画計画、品質計画、PM自己点検表、総合テストへのコメント審議
第15回	7月19日(金)	・監査チェックシートについて審議 ・残課題の意識合わせ(プロジェクト監査の定義、ガイドライン、監査報告、監査チェックリスト、詳細設計~結合テストの監査、サービス開始など)
第16回	8月23日(金)	・監査項目表の分類、並び替え ・成果物1章、2章の内容の整理、移動、全体の章立ての変更
第17回	9月27日(金)	・序章(トラブル事例、プロジェクト監査の必要性) ・1章(プロジェクト監査の定義等)、2章(プロジェクト監査の実施プロセス) 8章(プロジェクトマネジメントの監査)、監査項目一覧表について ・0版とりまとめ、SAAJ理事会、理事メンバーへの開示
第18回	10月18日(金)	・次年度活動の方向性 ・出版企画について

		・関東地区 SAAJ 活動説明会での PJA 説明、プロジェクト監査の講演内容
第 19 回	11 月 15 日(金)	・次年度活動計画の審議 ・出版企画調整
第 20 回	12 月 20 日(金)	・次年度活動計画の継続審議 ・成果物 1 版とりまとめ ・出版企画調整

(3) 成果物（出版原稿）

表題	失敗しないシステム開発のためのプロジェクト監査	
副題	プロジェクトマネジメントと監査のガイドライン	
章番号	章名	概要
序章	トラブル事例、プロジェクト監査の必要性	・トラブル事例 ・トラブル未然防止の基本 ・プロジェクト監査の必要性、など
第 1 章	プロジェクト監査とは	・プロジェクトリスク ・プロジェクト監査の定義 ・プロジェクト監査の概要、など
第 2 章	プロジェクト監査実施プロセス	・監査受託～監査報告までのプロセス ・監査項目、チェックシート ・監査フローなど
第 3 章	企画・計画のプロジェクト監査	・プロジェクト企画、プロジェクト計画の監査 ・外部委託先選定の監査、など
第 4 章	開発の監査(1) 外部設計	・外部設計、設計レビューの監査 ・アジャイルの監査 ・契約の監査、など
第 5 章	開発の監査(2) 実装設計～結合テスト	・実装設計の監査 ・プログラミング&単体テスト ・結合テストの監査、など
第 6 章	開発の監査(3) 総合テスト	・総合テスト開始前の事前監査 ・総合テスト終了の監査、など
第 7 章	サービス開始準備、効果検証の監査	・移行などのサービス開始の監査 ・システムの効果検証の監査、など
第 8 章	プロジェクトマネジメントの監査	・プロジェクトマネジメント監査の実施時期、 ポイント、監査項目、PMBOK®対応、など
付録	監査項目一覧表 (Excel 表)	105 項目

[>目次](#)

5. 支部

5. 1. 北海道支部

5. 1. 1. 支部体制

- 支部長 : 宮崎 雅年
- 副支部長 : 小林 弘幸
- 会計 : 谷口 泰正
- 研究会 : 宮崎 雅年 (兼務)、伊藤 淳一
- 広報 : 曾根本 育裕
- 監事 : 大館 広之

5. 1. 2. 第18回支部総会実施

(1) 日時 : 2019年12月6日(金) 18:30~19:00 参加者 : 4名、委任6名

(2) 内容 :

- 1) 2019年活動報告、2020年活動計画
- 2) 2020年役員選出、2020年研究会計画
- 3) 2019年会計報告および2020年会計予算について

5. 1. 3. 定例研究会・勉強会実施

(1) 1月研究会 参加者 : 2名

- 1) 日 時 : 2019年1月18日(金) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 「2019年に来る脅威と機会」
 - ・研究発表とディスカッション
 - ・発表者 : 宮崎 雅年 氏

(2) 2月研究会 参加者 : 4名

- 1) 日 時 : 2019年2月15日(金) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 「信頼できるインターネット社会の実現に向けて
ークラウドサービスの信頼性の評価のあり方ー」
 - ・第237回月例研究会のビデオ上映とディスカッション

(3) 3月研究会 参加者 : 4名

- 1) 日 時 : 2019年3月8日(金) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 『不正リスクへの理解を深めるー「不正のトライアングル」の活用』
 - ・第238回月例研究会のビデオ上映とディスカッション

(4) 4月研究会 参加者 : 3名

- 1) 日 時 : 2019年4月19日(金) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 「日本内部監査協会青木賞受賞 - IT会計帳簿論
~IT会計帳簿が変える経営と監査の未来~」
 - ・第18期本部総会特別講演会のビデオ上映とディスカッション

(5) 5月研究会 参加者 : 2名

- 1) 2018年5月24日(金) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 「次世代の会計業務と会計監査」
 - ・第240回月例研究会のビデオ上映とディスカッション

(6) 6月研究会 参加者 : 4名

- 1) 日 時 : 2019年6月14日(金) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 「サイバーセキュリティの現状と課題」
 - ・第241回月例研究会のビデオ上映とディスカッション

(7) 7月研究会 参加者 : 4名

- 1) 日 時 : 2019年7月16日(火) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 「プライバシー・個人情報保護論議の歴史と今後の課題」
 - ・第242回月例研究会のビデオ上映とディスカッション

- (8) 8月研究会 参加者：4名
 1) 日時：2019年8月23日(金) 18:30～20:30
 2) テーマ：「システム監査の課題と将来～システム監査人に求められること～」
 ・第226回月例研究会のビデオ上映とディスカッション
- (9) 9月研究会 参加者：2名
 1) 日時：2019年9月10日(火) 18:30～20:30
 2) テーマ：「システム監査の機能の変革と今後の課題」
 ・第244回月例研究会のビデオ上映とディスカッション
- (10) 10月研究会 参加者：4名
 1) 日時：2019年10月15日(火) 18:30～20:30
 2) テーマ：「データ流通システムの概要説明とシステム監査、
 セキュリティ監査への期待と課題について」
 ・第245回月例研究会のビデオ上映とディスカッション
- (11) 11月研究会 参加者：3名
 1) 日時：2019年11月8日(金) 18:30～20:30
 2) テーマ：第1部「AIについて監査人が考慮すべきこと（監査人の考慮点）」
 第2部「AI時代における監査の取組みとポイント
 （監査の具体的な取組み方）」
 ・第246回月例研究会のビデオ上映とディスカッション

5. 1. 4. 広報活動

- (1) 支部活動について対外的に広報、および支部員勧誘を行った。
 (2) 他団体との交流：
 ・北海道ITコーディネータ協議会との講演会共催、勉強会の相互開放
 (3) 支部員の変動：
 1) 2018年度 個人会員13名、法人会員3名
 2) 2019年度 個人会員12名、法人会員3名（個人会員1名減）
 3) 支部活動への参加：上記以外に非会員のべ10名参加

5. 1. 5. メーリングリストによる連絡

支部メーリングリストにより、支部員間の連絡および情報交換を実施している。

5. 1. 6. ホームページによる情報発信

協会のホームページの支部のコーナーに、北海道支部の情報を記載している。

5. 1. 7. Facebookによる情報発信

Facebook上に北海道支部のページを開設して北海道支部の情報を投稿している。12月5日現在41名がフォローしている。

[> 目次](#)

5. 2. 東北支部

5. 2. 1. 支部体制

- 支部長 : 横倉正教
- 副支部長 : 佐藤雅英
- 会計 : 櫻谷昭慶
- 研究広報 : 佐藤雅英(兼務)、後藤武志
- 監事 : 成田由加里
- 顧問 : 鈴木実

5. 2. 2. 「ITCみやぎ・SAAJ東北、JISTA東北 ワークショップ2019」

- 1) 日程：2019年10月19日(土) 13:00～17:00

- 2) 場所：(仙台市) 仙都会館 会議室7F-A
- 3) 主催：ITコーディネータ宮城会 (ITCみやぎ)
 日本システム監査人協会東北支部 (SAAJ東北)
 日本ITストラテジスト協会東北支部 (JISTA東北)
 後援：NPO法人ITコーディネータ協会
- 4) 内容：(参加者：19名) (講師4名を含む)
 (ITCみやぎ：5名、SAAJ：6名、JISTA：4名、一般：2名、重複あり)
- ・開講式 主催者挨拶
 - ・講演1 「東北 Society5.0 の実現に向けて」
 東北総合通信局 情報通信部長 鈴木厚志氏
 - ・講演2 「ICT 部門における BCP への取組みと課題」
 システム監査人協会 近畿支部 BCP 研究プロジェクト 松井秀雄氏
 - ・講演3 ドコモの 5G の取組みや事例
 「5G で変わる 働く現場の未来」
 NTTドコモ エバンジェリスト 福田将士氏
 - ・講演4 地域ベンチャー企業の取組み事例
 「仙台発ベンチャーJD SOUND が作る新しい音の世界」
 株式会社 JDSound 代表取締役 宮崎晃一郎氏
 - ・主催者 閉会の挨拶、閉講式

5. 2. 3. 定例研究会及び役員会

(1) 3月例会

- 1) 日程：2019年3月23日(土) 14:00~17:00
- 2) 会場：(仙台市) エスクリブ株式会社/会議室
- 3) 内容：(参加者：5名)
- ・研究会：2019年度テーマの決定「ロボットシステム導入におけるシステム監査」
 (「ロボットシステムインテグレータのスキル読本」を基に)
 - ・ワークショップ開催日程の決定：10/19(土) 午後

(2) 5月例会

- 1) 日程：2019年5月11日(土) 14:00~17:00
- 2) 会場：(仙台市) エスクリブ株式会社/会議室
- 3) 内容：(参加者：4名)
- ・研究会：「ロボットシステムインテグレータのスキル読本」の討議

(3) 7月例会

- 1) 日程：2019年7月6日(土) 14:00~17:00
- 2) 会場：(仙台市) エスクリブ株式会社/会議室
- 3) 内容：(参加者：5名)
- ・ワークショップについて
 - ・研究会：ロボットシステム導入にむけてのRFPの検討

(4) 9月例会

- 1) 日程：2019年9月7日(土) 14:00~17:00
- 2) 会場：(仙台市) エスクリブ株式会社/会議室
- 3) 内容：(参加者：5名)
- ・研究会：ロボットシステム導入にむけてのRFPの検討
 (特別WGの報告と検討)
 RIPS運用時の監査についての検討

(5) 11月例会&役員会

- 1) 日程：2019年11月30日(土) 14:00~17:00

- 2) 会場：(仙台市) エスクリブ株式会社/会議室
- 3) 内容：(参加者：5名)
 - ・ワークショップについて(報告)
 - ・役員会：支部総会について(開催日程・場所、総会議案書、特別講演会)
 - ・研究会：ロボットシステム導入手順ガイドの検討
(特別WGの報告と検討)

5. 2. 4. 特別WG活動

- ・ロボットシステム導入時の監査を行うにあたり、導入時のRFPを基に監査を行うことが最善策になると考え、ロボットシステム導入のためのRFP見本を作成する。
 - ・さらに、RFP見本の元になる「ロボットシステム導入手順ガイド」を作成する。
- (1) 第1回
- 1) 日程：2019年7月28日(土) 14:00~16:00
 - 2) 会場：(仙台市) BLUE LEAF CAFE
 - 3) 内容：(参加者：3名)
 - 1. 想定企業の検討
 - 2. RFP内容の検討研究会：2019年度テーマの決定
- (2) 第2回
- 1) 日程：2019年9月7日(土) 10:00~12:00
 - 2) 会場：(仙台市) BLUE LEAF CAFE
 - 3) 内容：(参加者：3名)
 - 1. RFP内容(第1章)の検討
- (3) 第3回
- 1) 日程：2019年10月5日(土) 10:00~12:00
 - 2) 会場：(仙台市) BLUE LEAF CAFE
 - 3) 内容：(参加者：2名)
 - 1. RFP内容(第1章概要&第6章評価と改善)の検討
- (4) 第4回
- 1) 日程：2019年11月2日(土) 10:00~12:00
 - 2) 会場：(仙台市) BLUE LEAF CAFE
 - 3) 内容：(参加者：2名)
 - 1. RFP内容(第1章1.4.2&第6章評価と改善)の検討
 - 2. 産業用ロボット安全規格についての検討
- (5) 第5回
- 1) 日程：2019年11月30日(土) 10:00~12:00
 - 2) 会場：(仙台市) BLUE LEAF CAFE
 - 3) 内容：(参加者：3名)
 - 1. RFP内容(第1章1.4.2、第2章提案依頼事項、第6章)、
 - 2. 「機密保持に関する覚書」の検討
- (6) 第6回
- 1) 日程：2019年12月21日(土) 10:00~12:00
 - 2) 会場：(仙台市) BLUE LEAF CAFE
 - 3) 内容：(参加者：2名)
 - 1. ロボットシステム導入手順ガイドの検討
 - 2. RFP内容の検討

5. 2. 5. 広報宣伝活動

- ・「ITCみやぎ・SAAJ東北・JISTA東北 ワークショップ2019」において、システム監査の普及および支部活動の宣伝を行った。

5. 3. 北信越支部

5. 3. 1. 支部体制

- 支部長 : 宮本茂明 (石川)
- 副支部長 : 梶川明美 (富山)
- 会計 : 長棟 隆 (富山)
- 監事 : 梶川明美 (富山)
- 県部会長 : 小嶋潔 (福井)、福田和夫 (石川)、國谷吉英 (富山)、
風間一人 (新潟)、長谷部久夫 (長野)
- 顧問 : 森広志 (富山)

5. 3. 2. 年度目標と実績

支部会員の能力向上と支部の技術基盤向上を目指す。

- (1) 会員相互の研鑽によるシステム監査技術の向上
 - ・システム監査・情報セキュリティ監査・システムリスク管理等、会員の担当業務の課題や研究活動に関する情報共有・意見交換により、課題解決への方向性等の気づきの場を設けた。
- (2) 本部、他支部との交流による知識、技術力の向上
 - ・研究会ビデオの貸出し運営。(地域別上映)。
 - ・他支部との合同研究会、交流等の企画推進。
- (3) プレゼンテーション能力の向上
 - ・研究報告プレゼンテーションの場を活用。
- (4) インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上
 - ・メーリングリストを活用した西日本支部合同研究会報告テーマに関する意見交換。
- (5) 会員増強/システム監査の普及・啓発
 - ・他団体との支部例会での交流等を通じ会員増強/システム監査の普及・啓発を推進。
 - ・一般の方も参加可能な、研究会を開催。

5. 3. 3. 活動報告

- (1) 北信越支部年度総会 2019年3月9日(土)(富山市 富山県民会館) [参加: 10名]
 - 1) 支部年度総会
 - ・2018年度活動報告と2019年度活動計画について
 - ・2018年度会計報告と2019年度会計計画について
 - 2) 本部総会報告
 - 3) 研究報告
 - ・「経済産業省の『DX推進ガイドライン』に基づく意見交換」 長谷部 久夫 氏
 - ・「世界情勢と5Gの概要」 森 広志 氏
 - ・「サイバー・フィジカル・セキュリティ対策フレームワークについて」 宮本 茂明 氏
- (2) 福井県例会 2019年6月8日(土)(福井市総合ボランティアセンター) [参加: 6名]
 - 1) 研究報告
 - ・「AIシステムをどう監査するのか？」 柄川 昌文 氏
 - 2) 西日本支部合同研究会北信越支部報告検討
 - 3) パスワード定期変更に関わるパスワードポリシーに関する意見交換
- (3) 新潟県例会 2019年9月14日(土)(新潟市生涯学習センター) [参加: 7名]
 - 1) 研究報告
 - ・スノーデン氏の提言「監視システムとプライバシー」 森 広志 氏
 - ・「NIST SP 800-53 セキュリティ管理策/プライバシー管理策カタログについて」
宮本 茂明 氏

- (4) SAAJ 中部・北信越支部、JISTA 中部合同研究会 in Nagoya 2019年11月9日(土)~10日(日)
(名古屋市 ウィンク愛知) [北信越支部参加者：1名]
1)テーマ：「強固な品質体制を構築するプロセスイノベーション人材の育成」
- (5) 西日本支部合同研究会 in Osaka 2019年11月23日(土)
(大阪大学 中之島センター) [北信越支部参加者：3名]
1)テーマ：「スマート社会とシステム監査」
2) 北信越支部報告：
「AIシステムをどう監査するのか？」 梶川 昌文 氏
- (6) 石川県例会 2019年12月7日(土) (金沢市 IT ビジネスプラザ武蔵) [参加：13名]
1)報告
・ SAAJ 中部支部・北信越支部・JISTA 中部合同研究会 参加報告/2020年度企画
・ 西日本支部合同研究会 in Osaka 参加報告
・ 2020年度計画意見交換
2)研究報告
「CIS Controls の概要」 宮本 茂明 氏

[>目次](#)

5. 4. 中部支部

5. 4. 1. 支部体制

- 支部長 : 久保田 秀男 (理事) (研究会担当)
- 副支部長 : 安井 秀樹 (理事) (イベント担当)
- 会計担当 : 鈴木 尚
- 会計監査 : 早川 晃由
- 監事 : 栗山 孝祐
- 顧問 : 大友 俊夫
- 顧問 : 田中 勝弘(本部研究会ビデオ管理担当)

5. 4. 2. 活動方針

- (1) 中部支部内会員の継続的な相互研鑽・交流を図る。
- (2) 中部支部以外の地域や団体との情報交流を積極的に展開していく。

5. 4. 3. 活動内容

- (1) 第1回研究会
 - 1) 日時：2019年1月26日(土) 14:00~17:00
 - 2) 場所：ORE名古屋伏見ビル 8階 富士通E会議室 参加12名
 - 3) 内容
 - ・ 『製造業のグローバル企業における IT ガバナンスモデルの提案とその評価~管理の成熟度と新システム監査基準の応用~』 SAAJ中部支部 原 善一郎 氏
- (2) 第2回研究会
 - 1) 日時：2019年3月23日(土) 14:00~17:00
 - 2) 場所：岐阜市 ハートフルスクウェアG研修室50 参加16名(うち2名JISTA中部会員)
 - 3) 内容
 - ・ 地方自治体のIT利活用を支えるITガバナンス SAAJ中部支部 進 京一 氏
- (3) 第3回研究会
 - 1) 日時：2019年5月25日(土) 14:00~17:00
 - 2) 場所：ORE名古屋伏見ビル 8階 富士通E会議室 参加：13名(うち2名 JISTA中部)
 - 3) 内容
 - ・ 自動車部品会社とSAP SAAJ中部支部 中島 辰也 氏

(4) 第4回研究会 (台風のため中止)

1) 日時 : 2019年7月27日 (土) 14:00~17:00

(5) 第5回研究会

1) 日時 : 2019年11月30日 (土) 14:00~17:00

2) 場所 : ORE名古屋伏見ビル 8階 富士通E会議室 参加 : 11名

3) 内容

・「日本システム監査人協会 第239回月例研究会「今、振り返る安対基準第9版」」

・総会

・2019年活動報告

・2020年活動方針・計画

5. 4. 4. イベント

(1) 「ISACA 名古屋支部設立 30周年記念講演会」を後援

1) 日時 : 2019年9月7日(土) 13:00~17:40

2) 場所 : TKPガーデンシティPREMIUM名古屋ルーセントタワー16階A SAAJ中部支部参加 : 5名

3) 内容 : 「信頼されるシステムを目指して ~ISACA名古屋30年の知恵を今ここに~」

(2) 「SAAJ中部支部・北信越支部・JISTA中部 合同研究会 in Nagoya」

1) 日時 : 2019年11月9日(土)13:30~10日(日)12:00

2) 場所 : ウィンク愛知 10F 1009 SAAJ中部支部参加 : 8名

3) 内容 : 「強固な品質体制を構築するプロセスイノベーション人材の育成」

(3) 「2019年度西日本支部合同研究会 in Osaka」

1) 日時 : 2019年11月23日(土) 13:00~17:00

2) 場所 : 大阪大学中之島センター SAAJ中部支部参加 : 6名

3) 内容 : 「スマート社会とシステム監査」

・中部支部発表

『強固な品質体制を構築するプロセスイノベーション人材の育成』久保田 秀男 氏

[> 目次](#)

5. 5. 近畿支部

5. 5. 1. 支部体制

(1) 支部役員 :

○理事 (支部長/BCP 研究プロジェクト/IT サービスグループ)	荒町弘
○理事 (副支部長/会計/教育サービスグループ)	福本洋一
○理事 (副支部長/教育サービスグループ)	荒牧裕一
○担当役員 (IT サービスグループ/教育サービスグループ)	是松徹
○担当役員 (教育サービスグループ)	山本全
○担当役員 (IT サービスグループ)	下田あずさ
○担当役員 (システム監査法制化推進プロジェクト)	田淵隆明
○担当役員 (システム監査法制化推進プロジェクト)	神尾博
○担当役員 (BCP 研究プロジェクト)	松井秀雄
○監事	浦上豊蔵

(2) 支部参与 :

安本哲之助、吉田博一

(3) サポーター :

松本拓也、植垣雅則、尾浦俊行、金子力造、川端純一、近藤博則、中田和男、吉谷尚雄、阪口博一、伊藤聖子、尾崎正彦、岩崎真明、小河裕一、浜田恒彰

※サポーターには定例研究会受付など支部の基幹的活動へ少しでも参画いただきます。

5. 5. 2. 活動方針

- ・定例研究会、システム監査勉強会を基本として、研究プロジェクト・グループ活動を通じて実践的な研鑽活動を行い、支部活動を充実する。また、支部役員会・サポーター会議の計画的な開催と課題管理等により支部運営のマネジメントを実施する。
- ・協会本部のシステム監査活性化プロジェクトの活動に連動して、支部会員の増強に努める。
- ・今年度は SAAJ 西日本支部合同研究会の開催が近畿支部主催での開催となる。西日本の各支部から広く研究発表をいただき、そして、今後の新たな研究プロジェクトの発足にもつながるようなテーマ設定とし企画・実施する。
- ・各活動については事業別の採算状況の可視化を行うことで財務の健全化と事業戦略策定への活用を行い、近畿支部財政状況の改善を目指す。

5. 5. 3. 2019 年度支部総会

(1) 日時：1月19日(金) 場所：大阪大学中之島センター

(2) 出席者：20名、委任状：20名

(3) 議題

1) 支部体制について

2) 2018年度事業報告／決算報告

3) 2019年度事業計画／予算計画

全て異議なく承認された。

5. 5. 4. 支部役員会・サポーター会議

支部活動の報告、今後の活動について、支部役員、及びサポーター各位と討議した。場所は、大阪大学中之島センター。

(1) 支部役員会 3月22日 6月21日 10月1日 11月29日

(2) サポーター会議 6月21日 11月29日

5. 5. 5. 西日本支部合同研究会 (2019年11月23日、24日)

2019年度は西日本支部合同研究会が近畿支部主催での開催の年であった。統一テーマを「スマート社会とシステム監査」とした講演5編による研究会を開催し62名の参加を頂くことができ、盛大に会を終えることができた。2日目のデータセンター視察にも多くの参加(15名)を頂くことができた。

開催日時：2019年11月23日(土) 13:00～17:00 研究会及び情報交換会開催

：2019年11月24日(日) 10:00～12:00 データセンター視察

テーマ：「スマート社会とシステム監査」

【講演 5編】

本部講演

演題：「DXの現況とシステム監査の可能性」

講師：SAAJ 副会長 三谷慶一郎 氏

支部講演 1

演題：「AIシステムをどう監査するのか？」

講師：SAAJ 北信越支部 栃川昌文 氏

支部講演 2

演題：「スマート社会を支えるプロセスイノベーション人材とシステム監査」

講師：SAAJ 中部支部 久保田秀男 氏

支部講演 3

演題：「(超)スマート社会 日本政府と新興国の動き」

講師：SAAJ 九州支部 荒添美穂 氏

支部講演 4

演題：「消費税複数税率時代のキャッシュレス社会 & AI時代にあるべきシステム
監査人の資質とは？」

講師：SAAJ 近畿支部 田淵隆明 氏

5. 5. 6. グループ活動

(1) 教育サービスグループ

・主査：荒牧裕一氏 副主査：福本洋一氏、是松徹氏、山本全氏

【目標】

1. 近畿支部会員を中心としたシステム監査人の方々に、システム監査に関連する教育サービスを提供し、システム監査人の知見やスキルの向上に寄与することを目的とする。
2. セミナーを通して、システム監査に関心がある方々および実際に企業内で関与されている方々に、システム監査の知識や体験を修得いただくことを目的とする。
3. 西日本支部合同研究会を円滑に実施する。

【成果】

- ・定例研究会：5回開催（1,3,5,9,12月）
※11月は西日本支部合同研究会開催のため個別開催なし
- ・システム監査勉強会：4回開催（2,4,6,8,10月）
- ・セミナー教材・活動報告書（第4四半期に1回） 目標の2回実施には至らず
- ・西日本支部合同研究会資料・活動報告書（11月）
- ・上記サービス提供にあたっての、運営計画書（TODO管理ツール）整備

【定例研究会】

- 1) 第177回 1月19日（金） 出席者：41名
テーマ：「マイナンバー制度により進行する社会の変容の実際とシステム監査」
講師：特定非営利活動法人日本システム監査人協会 顧問、
近畿支部 参与 システム監査技術者、公認システム監査人 吉田 博一 氏
- 2) 第178回 3月15日（金） 出席者：23名
テーマ：「働き方改革におけるシステム監査の有用性」
講師：株式会社ディレクタイズ エグゼクティブコンサルタント
米国公認会計士 社会保険労務士 システム監査技術者 島崎 智久 氏
- 3) 第179回 5月17日（金） 出席者：33名
テーマ：「医療機関における事業継続計画（BCP）と実践的訓練から学ぶリスクマネジメント」
講師：行政書士、危機管理士1級、医療経営士 伊藤 聖子 氏
- 4) 第180回 7月19日（金） 出席者：34名
テーマ：「やらないリスクが本当は怖い！システム開発時に必須の知的財産に関する確認工程」
講師：北摂国際特許事務所 代表弁理士 福永 正也 氏
- 5) 第181回 9月20日（金） 出席者：26名
テーマ：「地方自治体の働き方改革と公文書管理」
講師：合同会社 KU コンサルティング 代表社員 元・豊島区 CISO 高橋 邦夫 氏
- 6) 第182回 (ISACA大阪支部合同講演会) 12月15日（土） 出席者：44名
テーマ：「AI（人工知能）へのお誘い ～花開く機械学習の世界～」
講師：兵庫県立大学社会情報科学部 准教授 笹嶋 宗彦 氏

【システム監査勉強会】

- 1) 第63回 2月16日（土） 出席者：39名
SAAJ 本部第 231 回/235 回月例研究会の DVD を視聴。
テーマ1：「システムの不具合がもたらす社会的影響：ある損害賠償係争事件を巡って」
講師：東京大学名誉教授 玉井 哲雄 氏
テーマ2：「事例から学ぶ「発注者視点のプロジェクトマネジメントと監査」
～「発注者のプロジェクトマネジメントと監査」出版記念～」
講師：日本システム監査人協会 理事 プロジェクト監査研究会 主査
原田 憲幸 様 氏
- 2) 第64回 4月21日（土） 出席者：39名

SAAJ 本部第 237 回/238 回月例研究会の DVD を視聴。

テーマ 1: 「信頼できるインターネット社会の実現に向けて

—クラウドサービスの信頼性の評価のあり方—

講 師: 一般財団法人日本情報経済社会推進協会(JIPDEC) 常務理事
インターネットトラストセンター長 山内 徹 氏

テーマ 2: 「不正リスクへの理解を深める —「不正のトライアングル」の活用」

講 師: 一般社団法人日本公認不正検査士協会(ACFEJAPAN) 専務理事
株式会社インタクト・コンサルティング 執行役員
公認不正検査士 (CFE) 甘粕 潔 (あまかす きよし) 氏

3) 第65回 6月15日 (土) 出席者: 49名

SAAJ 本部第 240 回月例研究会の DVD を視聴。

テーマ 1: 「次世代の会計業務と会計監査」

講 師: 株式会社 JBA ホールディングス 代表取締役/グループ CEO 公認会計士
日本公認会計士協会組織内会計士協議会副議長
早稲田大学会計大学院非常勤講師 IFRS コンソーシアム主任研究員
脇 一郎 氏

テーマ 2: 「IT 業務処理統制の強化の必要性とその実現上の制度面での課題」

講 師: ジョイント・ホールディングス (株) IFRS グループ・ディレクター
公認システム監査人、公共政策・IFRS コンサルタント
行政書士 田淵 隆明 氏

4) 第66回 8月17日 (土) 出席者: 26名

SAAJ 第 18 期通常総会特別講演及び/本部第 242 回月例研究会の DVD を視聴。

テーマ 1: 「日本内部監査協会青木賞受賞 — IT 会計帳簿論

～IT 会計帳簿が変える経営と監査の未来～

講 師: 千葉商科大学大学院 会計ファイナンス研究科 教授 中村 元彦 氏

テーマ 2: 「プライバシー・個人情報保護論議の歴史と今後の課題」

講 師: 一橋大学名誉教授、前個人情報保護委員会委員長 堀部 政男 氏

5) 第67回 10月19日 (土) 出席者: 24名

SAAJ 本部第 241 回/244 回月例研究会の DVD を視聴。

テーマ 1: 「サイバーセキュリティの現状と課題」

講 師: プロモントリー・フィナンシャル・ジャパン マネージング・ディレクター
江見 明弘 氏

テーマ 2: 「システム監査の機能の変革と今後の課題」

講 師: 法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科 教授
システム監査学会 会長 石島 隆 氏

(2) 教育サービスグループ (セミナー担当)

システム監査の普及とシステム監査人の養成を目的としてセミナーを 1 回開催した。

1) システム監査 基本学習セミナー

近畿支部会員講師により、システム監査の手順と技法概説を行った後、情報処理技術者試験 過去問題を題材に試験対策も兼ねたシステム監査の考え方の解説を行った。

日時: 11 月 30 日 (土) 13 時 00 分～17 時 00 分 受講者: 16 名

・主査: 山本全氏 スタッフ: 5 名

・グループ会議: 2 月 26 日 4 月 24 日 5 月 29 日 6 月 26 日 7 月 24 日

8 月 21 日 9 月 18 日 10 月 25 日 11 月 27 日

(3) IT サービスグループ

支部の情報交換、情報発信及び研究プロジェクトの活動支援を行い、近畿支部サイトのセキュリティ強化への取り組みを行った。主な成果物は以下の通りである。

- 1) Webサイトの更新（平均1回/1ヶ月）、定例の情報更新に加え、トピック等を掲載
 - 2) Webサイト、MLの安定運用、Webサイトのセキュリティ強化対応
 - 3) メールマガジンの発行（第40号～第45号）：隔月
 - 4) 本部会報掲載：時事論評1本、エッセイ5本
- ・主査：是松徹氏 副主査：下田あずさ氏 他：6名
 - ・グループ会議：11月27日（メーリングリストでのやり取りを基本として活動）

5. 5. 7. 研究プロジェクト

2018年度より継続して2つ研究プロジェクトにより研究活動を行った。

(1) システム監査法制化推進プロジェクト

システム監査の法制化、及びIT政策に関する研究、提言、情報発信を実施した。定例研究会での発表、本部会報への投稿を行った。

定例研究会での講演（6/15）を実施。「IT 業務処理統制の強化の必要性とその実現上の制度面での課題」
講師：田淵隆明氏

- ・主査：田淵隆明氏 副主査：神尾博氏

【成果】

- ・講演：6月システム監査勉強会にて講演実施
「IT 業務処理統制の強化の必要性とその実現上の制度面での課題」
- ・本部会報掲載：コラム9本
「【コラム】『IT 業務処理統制の強化の必要性とその実現上の制度面での課題』（田淵）」
「【時事論評】「情報漏洩前提社会をどう生きるか」（神尾）」

(2) BCP 研究プロジェクト

企業組織におけるIT-BCP策定にあたっての課題等を考慮しつつシステム監査のポイントを検討してきた。「システム管理基準」と「レジリエンス認証」が求める整備内容を相互補完的に活用することにより、充実したIT-BCPのポイントを整備できるものと考え、考察を進める中、本部が進める赤本出版に向けたプロジェクトへの参画につき打診を受け、BCP研究プロジェクトメンバーで原稿執筆に向け取り組んだ。

- ・主査：荒町弘氏 副主査：松井秀雄氏 参加者：9名
- ・開催日：2月13日 3月13日 5月27日 6月17日 7月23日 8月18日
9月11日 10月9日 11月13日 12月11日
- ・5月 定例研究会にて講演実施（伊藤氏）。
「医療機関におけるBCPと実践的訓練から学ぶリスクマネジメント」。
- ・10月 SAAJ東北支部主催ワークショップにて講演実施（松井氏）。
「ICT部門におけるBCPへの取り組みと課題」。
- ・SAAJ赤本プロジェクト（2020年5月発刊予定）において事業継続におけるシステム管理基準の活用分野で原稿執筆「システム管理基準とレジリエンス認証制度に関する考察」。

[> 目次](#)

5. 6. 中四国支部

5. 6. 1 支部体制

- 支部長 : 廣末 浩之
- 副支部長 : 田川 誠、佐藤 康之
- 会計 : 本多 美和子
- 監事 : 福原 博明

5. 6. 2. 活動概要

- (1) 月例会の実施（計6回実施）
- (2) 支部メーリングリストによる連絡、情報交換等

5. 6. 3 活動実績

月例研究会（東京）のDVDの視聴及び情報交換を中心に月例会を実施した。

- (1) 1月度月例会 2019年1月8日（火）18:00～20:00 出席4名
「不正リスクへの理解を深める―「不正のトライアングル」の活用」（DVD視聴及び情報交換）
- (2) 3月度月例会 2019年3月28日（木）18:00～20:00 出席3名
「信頼できるインターネット社会の実現に向けて」（DVD視聴及び情報交換）
- (3) 5月度月例会 2019年5月30日（木）18:00～20:00 出席8名
「次世代の会計業務と会計監査」（DVD視聴及び情報交換）
- (4) 7月度月例会 2019年7月18日（木）18:00～20:00 出席10名
「サイバーセキュリティの現状と課題」（DVD視聴及び情報交換）
- (5) 9月度月例会 2019年9月10日（火）18:00～20:00 出席4名
「システム監査の機能の変革と今後の課題」（DVD視聴及び情報交換）
- (6) 11月度月例会 2019年11月28日（木）18:00～20:00 出席6名
「A Iについて監査人が考慮すべきこと（監査人の考慮点）」及び
「A I時代における監査の取組みとポイント（監査の具体的な取組み方）」（DVD視聴及び情報交換）

[>目次](#)

5. 7. 九州支部

5. 7. 1. 役員体制

- 支部長 : 船津 宏
- 副支部長 : 荒添 美穂、中溝 統明
- 会計 : 鶴岡 通
- 監査 : 下司 正雄
- 事務局 : 福田 啓二
- 地区担当 : 長崎 平山 克己
: 熊本 桐原 光洋
: 大分 梶屋 博史
: 鹿児島 山下 博美

5. 7. 2. 活動概要

- (1) 月例会の開催。
通例どおり、原則月1回の月例会を開催した。（福岡市）
また、月例会はシステム監査学会やISACA福岡支部との共催となっている。
- (2) イベント企画・推進について
大分合同セミナーを九州支部と大分県中小企業診断士協会・大分IT経営推進センター・システム監査学会共催で開催(2/9)。
- (3) 支部会員の維持・拡大
今年は、情報処理技術者試験会場でのパンフレット配布を取りやめた。

5. 7. 3. 月例会

毎月、本部月例研究会のビデオ視聴および支部会員の研究・検討・報告事項の発表を中心に行った。

以下は各月の主要事項。（各回の主要発表事項）

- (1) 第324回 1月度月例会 1月26日（土）13:00～17:00
参加：17名（内SAAJ7名）
 - ・ビデオ視聴：第237回「信頼できるインターネット社会の実現に向けて―クラウドサービスの信頼性の評価のあり方―」
 - ・報告・連絡
- (2) 第325回 3月度月例会 3月23日（土）13:00～17:00
参加：19名（内SAAJ8名）

- ・ビデオ視聴：第 238 回 「不正リスクへの理解を深める
－「不正のトライアングル」の活用」
- ・報告・連絡
- (3) 第 326 回 4 月度月例会 4 月 13 日 (土) 13:00～17:00
参加：15 名 (内 SAAJ 5 名)
 - ・ビデオ視聴：第 240 回 「次世代の会計業務と会計監査」
 - ・報告・連絡
- (4) 第 327 回 5 月度月例会 5 月 25 日 (土) 13:00～17:00
参加：10 名 (内 SAAJ 3 名)
 - ・ビデオ視聴：第 241 回 「サイバーセキュリティの現状と課題」
 - ・報告・連絡
- (5) 第 328 回 6 月度月例会 6 月 22 日 (土) 13:00～17:00
参加：17 名 (SAAJ 8 名)
 - ・ビデオ視聴：第 242 回 「プライバシー・個人情報保護論議の歴史と今後の課題」
 - ・報告・連絡
- (6) 第 329 回 7 月度月例会 7 月 27 日 (土) 13:00～17:00
参加：12 名 (SAAJ 5 名)
 - ・ビデオ視聴：「映像で知る情報セキュリティ」より 4 件の e 啓発映像を視聴
 - ・報告・連絡
- (7) 第 330 回 8 月度月例会 8 月 24 日 (土) 13:00～17:00
参加：17 名 (SAAJ 5 名)
 - ・ビデオ視聴：第 244 回 「システム監査の機能の変革と今後の課題」
 - ・報告・連絡
- (8) 第 331 回 9 月度月例会 9 月 21 日 (土) 13:00～17:00
参加：10 名 (SAAJ 4 名)
 - ・ビデオ視聴：ISACA 殿コンテンツ「5G が切り開く新たな共創の可能性」
 - ・報告・連絡
- (9) 第 332 回 10 月度月例会 10 月 26 日 (土) 13:00～17:00
参加：15 名 (SAAJ 7 名)
 - ・ビデオ視聴：第 245 回 「データ流通システムの概要説明とシステム監査、
セキュリティ監査への期待と課題について」
 - ・報告・連絡
- (10) 第 333 回 12 月度月例会 12 月 14 日 (土) 13:00～17:00
参加：23 名 (SAAJ 7 名)
 - ・九州支部総会
 - ・ビデオ視聴：第 246 回 「A I について監査人が考慮すべきこと (監査人の考慮点)」
 - ・報告・連絡

5. 7. 4. 主催、共催イベント

- (1) 大分 IT 経営推進センター主催 大分 合同セミナー (九州支部:4 名)
 - 1) 日時：2019年2月9日 (土) 13:30～17:30
 - 2) 会場：ホルトホール大分 410会議室
 - 3) 内容：
 - 【第一部】日本システム監査人協会会員による講演とディスカッション
「JISQ15001:2017を基準としたシステム監査
－規格本文をもとにした個人情報保護マネジメントシステム－」
講師：船津 宏
 - 【第二部】大分県中小企業診断士協会会員による講演とディスカッション
「中小企業支援における初回アプローチについて」

講師：阿部 芳久 氏

【第三部】大分IT経営推進センター会員による講演とディスカッション
「WEBアクセス解析による企業支援について」（体験ワーク含む）

講師：中原 ひとみ 氏

[> 目次](#)

第2部 会計報告及び会計監査報告

1. 2019年度 活動計算書

2019年1月1日から2019年12月31日まで 特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第18期

(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取入金・会費			
受取入金	77,000		
受取会費	6,785,000	6,862,000	
2 受取寄附金			
受取寄附金	522,938		
ボランティア受入評価益	750,645	1,273,583	
3 事業収益			
普及・啓発、広報事業収益	26,000		
研究・研修事業収益	4,548,265		
認定事業収益	3,257,150		
支部事業収益	835,017	8,666,432	
4 その他収益			
印税収益	175,304		
雑収益	933	176,237	
経常収益 計			16,978,252
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
事業活動手当	3,713,955		
人件費 計	3,713,955		
(2) その他経費			
普及・啓発、広報事業運営費	1,071,230		
研究・研修事業運営費	2,934,087		
認定事業運営費	544,878		
支部事業運営費	1,327,699		
事務所運営費	217,077		
その他経費 計	6,094,971		
事業費 計		9,808,926	
2 管理費			
(1) 人件費			
事務局手当	3,192,858		
厚生費	5,276		
ボランティア評価費用	750,645		
人件費 計	3,948,779		
(2) その他経費			
通信費	168,843		
旅費交通費	442,327		
消耗品費	164,006		
会議費	306,059		
事務所運営費	1,519,539		
ハード・ソフト費用	234,800		
減価償却費	342,785		
租税公課	247,975		
諸会費	72,000		
印税支払	109,379		
雑費	144,749		
その他経費 計	3,752,462		
管理費用 計		7,701,241	17,510,167
当期経常増減額			△531,915
当期正味財産増減額			△531,915
前期繰越正味財産額			23,082,929
次期繰越正味財産額			22,551,014

[> 目次](#)

2. 2019年度 貸借対照表

2019年12月31日現在

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第18期

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金・預金	24,568,870		
流動資産 合計		24,568,870	
2 固定資産			
(1) 有形固定資産			
器具備品	207,259		
有形固定資産 計	207,259		
(2) 無形固定資産			
ソフトウェア	243,000		
無形固定資産 計	243,000		
(3) 投資その他の資産			
敷金	966,336		
投資その他の資産 計	966,336		
固定資産 合計		1,416,595	
資産 合計			25,985,465
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	187,142		
預り金	181,409		
仮受金	102,400		
前受金	2,963,500		
流動負債 合計		3,434,451	
負債 合計			3,434,451
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産額		23,082,929	
当期正味財産増減額		△531,915	
正味財産 合計			22,551,014
負債及び正味財産 合計			25,985,465

3. 計算書類に対する注記

3. 1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO 法人会計基準（NPO 法人会計基準協議会）によっています。

(1) 固定資産の減価償却の方法

器具備品は定率法、ソフトウェアは定額法により、帳簿価額を直接減額しています。

(2) 消費税等の会計処理方法

税込方式によっています。

[> 目次](#)

3. 2. 事業別損益の状況

(単位:円)

科目	普及・啓発、 広報事業	研究・研修 事業	認定事業	支部事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益							
1 受取入会金 ・会費						6,862,000	6,862,000
2 受取寄附金						1,273,583	1,273,583
3 事業収益	26,000	4,548,265	3,257,150	835,017	8,666,432		8,666,432
4 その他収益						176,237	176,237
経常収益計	26,000	4,548,265	3,257,150	835,017	8,666,432	8,311,820	16,978,252
II 経常費用							
(1)人件費							
手当	180,000	1,686,000	1,847,955		3,713,955	3,192,858	6,906,813
厚生費						5,276	5,276
ボランティア 評価費用						750,645	750,645
人件費 計	180,000	1,686,000	1,847,955		3,713,955	3,948,779	7,662,734
(2)その他経費							
事業運営費	1,071,230	2,934,087	544,878	1,327,699	5,877,894		5,877,894
通信費						168,843	168,843
旅費交通費						442,327	442,327
消耗品費						164,006	164,006
会議費						306,059	306,059
事務所運営費			217,077		217,077	1,519,539	1,736,616
ハード・ ソフト費用						234,800	234,800
減価償却費						342,785	342,785
租税公課						247,975	247,975
諸会費						72,000	72,000
印税支払						109,379	109,379
雑費						144,749	144,749
その他経費 計	1,071,230	2,934,087	761,955	1,327,699	6,094,971	3,752,462	9,847,433
経常費用 計	1,251,230	4,620,087	2,609,910	1,327,699	9,808,926	7,701,241	17,510,167
当期経常増減額	△1,225,230	△71,822	647,270	△492,682	△1,142,464	610,579	△531,915

支部に対しては、本部より助成金として、864,000円を支給していますが、上記損益状況には含んでいません。

3. 3. 活動の原価の算定に当たって必要なボランティアによる役務の提供の内訳

(単位:円)

内容	金額	算定方法
事務局作業 1名	750,645	理事活動等に関する規程第3条の2第2号に基づき算定しています。

[>目次](#)

3. 4. 固定資産の増減内訳

(単位:円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
器具備品	2,646,236	151,580		2,797,816	2,590,557	207,259
無形固定資産						
ソフトウェア	3,846,000			3,846,000	3,603,000	243,000
投資その他の資産						
敷金	966,336			966,336		966,336
合計	7,458,572	151,580		7,610,152	6,193,557	1,416,595

3. 5. 役員及びその近親者との取引の内容

(単位:円)

科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引
(活動計算書)		
事業活動手当	3,713,955	1,309,110
活動計算書 計	3,713,955	1,309,110

3. 6. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

・事業費と管理費の按分方法

各事業の経費及び事業費と管理費に共通する経費のうち、事務所運営費については、事務所の使用面積割合に基づき按分しています。

[> 目次](#)

4. 2019年度 財産目録

2019年12月31日現在

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第18期

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
・本部現金預金			
三井住友銀行(日本橋東)	7,247,860		
みずほ銀行(八重洲口)	3,849,204		
三菱東京UFJ銀行(日本橋)	2,301,044		
楽天銀行	1,492,339		
郵便振替口座	4,058,798		
郵便普通預金	2,311,046		
小口現金	457,973		
・支部現金預金			
北海道支部	354,455		
東北支部	109,253		
北信越支部	281,209		
中部支部	392,689		
近畿支部	1,080,025		
中四国支部	297,437		
九州支部	335,538		
流動資産 合計		24,568,870	
2 固定資産			
(1) 有形固定資産			
シュレッダー 1台	1		
パソコン 3台	207,255		
プロジェクター 4台	1		
サーバー 1台	1		
ストレージ 1台	1		
有形固定資産 計	207,259		
(2) 無形固定資産			
クラウドサーバーOS アップグレード	243,000		
無形固定資産 計	243,000		
(3) 投資その他の資産			
敷金 共同ビル	966,336		
投資その他の資産 計	966,336		
固定資産 合計		1,416,595	
資産合計			25,985,465
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金			
ホームページ更新作業料等	187,142		
預り金			
源泉徴収税金	181,409		
仮受金			
支払口座確定までの印税支払資金	102,400		
前受金			
翌年以降分の会費・入会金	2,672,000		
翌年以降分のCSA・ASA更新料	291,500		
流動負債 合計		3,434,451	
負債合計			3,434,451
正味財産			22,551,014

[> 目次](#)

5. 2019年度 監査報告

監査報告書

1. 特定非営利活動法人日本システム監査人協会における2019年度

(2019年1月1日から2019年12月31日)の活動計算書、貸借対照表並びに財産

目録は、関係諸帳簿、その他の関係書類を監査したところ、いずれも適正であり、また、

NPO法人会計基準に準じて正確に作成されたものであることを認めます。

2. 業務遂行に関しては、不正行為または法令もしくは定款に違反する事実は認められません。

2020年2月1日

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

監事 木村 裕一 

監事 大西 智 

>目次

2 2020年度 事業計画（案）

[> 目次](#)

1. 本部・計画

1. 1. 全般概要・計画

2020年度は、システム監査を取り巻く状況を踏まえながら、さらなる前進に挑戦する年にする。

(1) 2020 年度活動方針

2020 年度の協会の活動方針は次の3点とする。

1) システム監査人の社会的評価の向上

協会の認定資格である「公認システム監査人」への評価を向上させる。

2) システム監査の活性化

○システム監査を核にした“IT アセスメント”の普及を図り、SAAJの活動を“IT アセスメント”の実践に焦点を当てて取り組む。

○この取組みによって、システム監査人のビジネス機会の拡大を図り、SAAJの知名度向上、会員の増大に繋げる。

3) 協会運営体制の充実と認知

○研究会、部会活動を中心に、会員参加の協会運営体制の充実を図る。

○認定 NPO 法人の更新年次に当たり、認定を堅持して公益性を保つことにより社会からの信頼を得て協会の認知度を高め、システム監査を通じて社会に貢献していく。

(2) 2020 年度活動計画

システム監査の活性化の一環として、次の活動に取り組む。

1) 「ITガバナンスのアセスメント」のISO化を実現させるべく、活動を展開する。

2) システム監査に関連する他団体との交流・連携を推進する。

3) 2018年に改訂されたシステム監査基準、システム管理基準に対応した、『情報システム監査実践マニュアル（第3版）』を刊行し、システム監査の普及に寄与する。

4) ホームページ、会報の充実を図り、会員同士のコミュニケーション、協会外部に対する情報発信を推進する。

5) 事務局

事務局業務の効率化を図り、会員サービスの向上に取り組むとともに、会計と協力し、協会の健全運営に努める。

(3) 2020 年度の予算編成

予算は協会の活動方針に沿って編成する。

1) 編成方針

収益性ととも活動性を重要とする（有効性の高い活動への重点配分）。

2) 事業活動

事業活動は、収支バランスを原則とする。収支は公認システム監査人等認定事業収支が隔年上下変動することを考慮し、2年タームで収支を確認する。

[> 目次](#)

2. 委員会・計画

2. 1. システム監査活性化委員会・計画

(1) 体制

○委員長 : 小野修一会長

○メンバー : 各研究会、部会、委員会、担当の主査および各支部長

(2) 2020 年度活動方針

2020 年度のシステム監査活性化委員会（通称、活性化委員会）は、引き続き、SAAJの「ビジョン」の実現につなげる具体的施策の検討・実施を推進する。

(3) 具体的な施策と今後の課題

2020年度は、SAAJの「ビジョン」を実現するための施策について、さらに掘り下げた検討を行い、各研究会等の具体的な活動に反映していく。当委員会のメンバーは各研究会、部会、委員会、担当の主査および各支部長であり、当協会の総力を結集してSAAJの「ビジョン」実現のための施策を策定・実施していく。研究会等単独ではなく複数の研究会等が協力して取り組むべきと判断した施策については、実施体制（プロジェクトチーム体制）を構築し取り組み、実施状況を委員会の場で報告・意見交換を行う。

4年続けて実施した「会員向け活動説明会」は、参加者数も安定しており、参加された方の満足度も高いことから、内容の見直しを行った上で、2020年度も引き続き実施する。

【赤本改定プロジェクト】

(1) 体制

○主査 : 松枝憲司 副主査 : 力利則

○メンバー : (編集者) 1部 : 大石正人、2部 : 豊田諭、3部 : 力利則、4部 : 吉田裕孝、5部 : 野田正勝
(執筆者) 齊藤茂雄、桜井由美子、島田裕次、野嶽俊一、原善一郎、松尾正行、山口達也
情報セキュリティ研、個人情報保護研、事例研、IT アセスメント研、法人部会、近畿支部
(他団体) システム監査学会、ISACA 東京支部他

(2) 活動の概要

2018年4月のシステム監査基準・管理基準の改訂を受けて、協会が発刊している「情報システム監査実践マニュアル第2版」を改定して第3版として出版する。また基準改訂に参加した他団体も執筆メンバーとして参画してもらうことで、より広い範囲での拡販につなげる。

(3) 活動計画（全体活動に関するもの）

- 1) 原稿校正 : 1月下旬-3月下旬 (3回)
- 2) 総会での赤本3版に関するチラシの配付
- 2) 出版 : 6月3日 (水) の月例会での販売を目標

> 目次

2. 2. ホームページ運営委員会・計画

(1) 体制

○委員長 : 斎藤由紀子

○メンバー : 委員会・部会・研究会の各主査、支部長

(2) 2020年度活動方針

協会のホームページ <https://www.saaj.or.jp/> について、しばらく更新されていないページについては、各委員会、部会、研究会の各主査、支部長に見直しを依頼して、魅力的なサイトとする。

(3) 具体的な施策と今後の課題

- 1) 協会のホームページ <https://www.saaj.or.jp/> について、参加募集、募集終了などダイナミックなサイトについては委託先に依頼を中心とする。単に文字や画像の表示変更であれば、事務局にても対応する。
- 2) 事務局サイト、<https://www.saaj.jp> に公開している「PMSハンドブックV1」及び「PMSハンドブックV2」のダウンロードサイトを継続して公開する。
- 3) 会報、総会資料のダウンロードサイト、月例研究会開催履歴は今後も継続して公開していく。

> 目次

2. 3. 推薦制度運営委員会・計画

(1) 体制

○委員長 : 仲厚吉

○メンバー : 松尾正行 三谷慶一郎

(2) 2020年度活動方針

2020年度は、1号推薦（外部からの推薦依頼）又は2号推薦（台帳登録者からの自己推薦依頼）を受けてシステム監査人適任者の推薦を行う。

(3) 具体的な施策と今後の課題

1号推薦、2号推薦の推薦とともに、行政機関、地方公共団体等より依頼される委員等の推薦に応えること、及び外部団体のシステム監査人募集等に協力することも施策及び今後の課題とする。

[> 目次](#)

2. 4. 認定委員会・計画

(1) 体制

○委員長 : 舘岡均

○メンバー : 常任委員・副委員長（斉藤茂雄、豊田諭）、委員（理事）

(2) 2020年度活動方針

1月から2月にかけての資格更新審査と認定証の発行、および春秋期の新規応募者の資格認定審査における受付～審査～面接～認定証の発行は、さらに手順の整理などを行い効率良く実施する。

認定資格更新手続きについては、2015年度より電子メールによる提出を実施した結果、更新者にとって郵送料が不要となりかつ利便性が良いことから引き続き実施する。

(3) 具体的な施策と今後の課題

特別認定制度の改定（2017年6月8日）を実施したので、2019年度に引き続きフォローアップを行う。

[> 目次](#)

2. 5. CSA 利用推進グループ・計画

(1) 体制

○主査 : 斉藤茂雄

○メンバー : 桜井由美子、カ利則、原純江、大西智（オブザーバ）

(2) 2020年度活動方針

CSAのプレゼンスと社会的な評価や価値を高め、具体的な実効を挙げることを引続き目標とする。CSA資格更新を積極的に行ってもらえるようにCSA資格の取得効果を実感できる活動を行う。CSAに関わる課題を取りまとめ、CSA利用推進G以外の部会・研究会との連携も深め、SAAJ全体の活動に広げていく。

(3) 具体的な施策と今後の課題

1) CSAフォーラムはフェイスtoフェイスの場として年3回以上の開催を目標に推進する。2019年度と同様に、CSA・ASAメーリングリストを用いた資格者全員への事前案内とする。

2) 2017年度に作成した「CSAご案内リーフレット」をCSA・ASAの認知度向上とCSA・ASA資格申請者増のためのツールとして活用する。

3) 法人部会と連携して、自治体等に対するDM送付の際「入札条件への資格記載の依頼」を同封する。

4) 今後は、CSA利用推進に対する支援メンバーの増強や他部会等との連携を通じ、CSA利用推進について施策の拡充、協会ホームページにおけるCSA関連サイトの内容充実などを図っていく。

[> 目次](#)

2. 6. 教育研修委員会・計画

(1) 体制

○委員長 : 三輪智哉

○委員 : 中山孝明、戸室佳代子、越野雅晴

(2) 2020年度活動方針

1) これまでと同様、特別認定講習実施機関（以下「講習実施機関」という）2社に委託し、特別認定講習3コースを実施する。

2) 特別認定講習3コースに変更はなく、下表のとおり開催する。

講習コース	概要
(1)論文・プレゼンテーションコース (1日コース)	システム監査技術者午後Ⅱ論述式問題に合格できるレベルの論文作成能力、および監査報告のためのプレゼンテーション能力を習得する。
(2)システム監査に関する知識コース (2日コース)	システム監査技術者試験午後Ⅰ記述式問題に合格できるレベルの知識・能力を習得する。
(3)情報システムに関する知識コース (2日コース)	システム監査技術者試験午前・多肢選択式問題に合格できるレベルの知識を習得する。

- 3) 特別認定講習の開催は講習実施機関の計画にもよるが、近年の開催状況から実施回数および修了者数は2019年度実績と同程度を見込む。
- 4) 講習実施機関の試験問題・採点要領・採点結果について、引き続き必要な協議・見直しおよび指導を継続する。
- 5) 特別認定講習受講者の増加策について、講習実施機関と情報交換や協議を通じ効果的な活動に取り組む。

[> 目次](#)

2. 7. 月例研運営委員会・計画

(1) 体制

- 委員長 : 力利則
- 副委員長 : 櫻井俊裕
- メンバー : 林昭夫 柳田正 戸室佳代子 原純江 豊田諭 清水恵子 山口達也 福田敏博
竹原豊和
- アドバイザー : 木村裕一 仲厚吉 三谷慶一郎

(2) 2020年度活動方針

2020年度についても、年間9～10回の開催を予定したい

(3) 各回のテーマ/講師について

- 1) 引続きシステム監査に関連する、鮮度のよいテーマの選定に努めたい。
- 2) 2020年度のテーマ選定にあたり、広く理事全員と会員からも意見を出してもらい参考にする。
- 3) 分野については特定分野に偏らずバランスよく選定していきたい。
- 4) 講師については、官公庁、諸団体、民間、大学教員及び当協会関係者等のバランスを考慮していきたい。

(4) 具体的な施策と今後の課題

- 1) 会場：機械振興会館のホールは、最寄り駅からの距離が多少あるが、椅子が資料台付にて、環境も良好なので、引き続き利用することで進めたい。
- 2) テーマ選定：会員がどのようなテーマを希望するか、会員アンケートを参考に加えて検討したい。担当理事による毎月の会合により、幅広い観点から、テーマを選定する。引き続きホットなテーマ、幅広い講師招聘をすすめ、多くの会員等の期待に応えていきたい。
- 3) 入会案内の実施：参加者の内約20%を占める会員以外の参加者に向けて、協会の研究会案内、活動の紹介と、案内印刷物の配布と声掛け、開催前のスライド映写を行い、新規入会を引き続き促したい。
- 4) 開催日の設定の工夫：他団体の研究会と開催日が重なると参加者が減少することから、2019年度は他団体の研究会日程等と重複しないように開催した。今年度も引き続き可能な範囲で考慮する。さらに2019年度の会員アンケートの結果を受けて、土日開催や地方開催等も検討する。
- 5) 配布資料の電子化：講師の承諾が得られた場合、参加者に電子データの資料をWEB画面からダウンロードして参加者自身にご持参いただくことを継続する。それにより配布資料の電子化を進める。
- 6) 支部研究会へのビデオ提供：講師の承諾を得て、ビデオの撮影、支部研究会への提供を継続する。各支部にてビデオ映写による月例研支部開催を勧めたい。
- 7) 「月例研究会」担当理事の運用マニュアルの充実と活用：事務局と当番理事の役割分担、会員・他団体へのメール案内、当日の支援体制、理事会への報告、会報誌への講演録掲載、運用マニュアルの更新等を引き続きしっかり進めたい。

3. 部会・計画

3. 1. 会報部会・計画

(1) 体制

- 主査 : 竹原豊和
- 副主査 : 安部晃生、越野雅晴
- メンバー : 豊田諭、福田敏博、柳田正、山口達也
- 編集支援 : 会長、各副会長、各支部長

(2) 2020 年度活動方針

2020 年度は、会報年間テーマを 2019 年度に引き続き「システム監査人のターニングポイント」とする。

(3) 会報部会の運営

- 1) 会報投稿原稿は、標準フォーマットを使用して運用する。
- 2) 会報の発行は、編集委員持ち回りで、月次発行を維持する。
- 3) 該当月の編集が終了すると次月号編集担当宛に「引継書」を作成し、引き継ぎに漏れがないようにする。
- 4) 定期総会時に優れた投稿記事に「会報アワード」を授与する。

3. 2. 法人部会・計画

(1) 体制

- 主査 : 山口達也
- 主たる活動メンバー : 小野修一、齊木孔二、斉藤茂雄、真鍋直緒、矢野一男、佐々野未知、加佐見明夫

(2) 2020 年度活動方針

会員の拡大、システム監査活性化委員会との連携

- ・2020 年は 2019 年度に引き続きシステム監査活性化委員会等他の部会と連携しつつ、法人正会員の増強に努める。
- ・法人部会、さらには当協会の活動成果のアピールが会員の増強につながるので、活動の充実を図っていく。

(3) 具体的な施策と今後の課題

1) 情報セキュリティセミナーの企画・実施

セミナー実施は協会の知名度向上にも意義のある活動であり、セミナー内容の充実、実施事例のアピールなどによって、さらに広報を行い、実績を上げたい。

また昨今のクラウドサービスやサイバーセキュリティの状況を踏まえ、セミナー内容の改定・拡充を企画・実施する。

2) 会報での法人会員企業紹介

- ・会報に会員企業の企業紹介を行うなど、会員企業からの情報発信機会を増やす。

3) 会員同士の情報交換

定例の部会などを通じ、次のようなテーマで、会員企業同士で意見交換を行っていく。

- ・システム監査のビジネス化
- ・システム監査を取り巻く技術、情報、動向など技術資料等の輪読の実施
- ・会員相互での最新のシステム監査関連トピックに関する情報交換

4) 定例部会

- ・原則、毎月第 2 火曜日に開催する。(2 月、8 月を除く)

4. 研究会・計画

4. 1. システム監査事例研究会・計画

(1) 体制

○主査 : 野田正勝

○メンバー : 48名(2019年12月現在)

(2) 2020年度活動方針

- 1) システム監査普及サービスは事例研究会の活動の源泉であるため、引き続き受託活動を進める。
- 2) システム監査実務・実践セミナー、事例に学ぶ課題解決セミナーを定期的に開催する。また、新教材の作成や既存教材の見直しを行うことで、教材の充実とセミナー講師の育成を行う。
- 3) 月例定例会で継続的に研究活動を行うことで活性化を図り、システム監査普及サービスや各種セミナーの実行体制の増強を図る。

(3) 具体的な施策と今後の課題

1) システム監査普及サービスの受託・実施

- ・システム監査普及サービスは事例研究会の活動の源泉になるものであるが、最近の実施は非常に少なくなっている。2019年度は照会が1件のみ(2018年度は4件)で、機会も少なくなっている。事例研究会での体制は、必ずしも十分に確保できる状況ではないが、2016年度のように協会内公募を図るなど、体制の強化を行い、受託につなげていく。

2) 監査普及サービス資料の教材化

- ・最近の最終実績であるj社については、システム内容の置き換え等も含め、被監査会社が判別・類推できないように教材化を検討しているが、進捗が思わしくない状況である。既存教材が時間の経過とともに劣化している状況での新教材の作成は、セミナー講師の育成・増員のためにも急務である。2018年度内部より提案のあった方針で作業を立ち上げ、教材化概要がまとまった段階でj社に説明し、j社の了解を得た上で、資料の具体的教材化を進めていく。

3) システム監査実務・実践セミナーの開催

- ・公認システム監査人制度の教育制度の一環として、システム監査実務セミナー4日間コースを2回、システム監査実践セミナー2日間コースを2回開催する。システム監査普及サービス実施結果に基づく新教材の開発、並びに、赤本の改定にともなう既存教材の改定もを行い、システム監査未経験の会員及び公認システム監査人補にシステム監査実務を経験する機会を提供する。
- ・セミナー運営に関しては、2015年度より変更した、担当講師がセミナー事務局を兼任する運営体制を踏襲すると共に、講師の育成、運営ノウハウの明文化により、次世代への継承を図る。
- ・具体的な開催計画は、以下の通り。

	2020年予定	内容
1	3月開催予定	第35回実務セミナー土日帰り4日間コース
2	8月～9月開催予定	第36回実務セミナー平日帰り4日間コース
3	6月～7月開催予定	第36回実践セミナー平日帰り2日間コース
4	11月開催予定	第37回実践セミナー平日帰り2日間コース

4) 事例に学ぶ課題解決セミナーの開催

- ・月例定例会で教材アイデアの検討をしていることを踏まえ、教材及び教師の増強を図り、年2回(5月、12月)の開催を目標とする。

5) 月例定例会の活性化

- ・2017年度より実施している課題解決セミナー教材のアイデア検討が定着しつつあるため、引き続きこの研究および2020年度より赤本改定に伴う実務・実践セミナーの教材改定を中心に月例定例会での研究活動を充実させる。実務・実践セミナーの開催時、並びに、協会の活動説明会時等に積極的に勧誘して新規の会員を増やすことにより、月例定例会の活性化を図る。

[> 目次](#)

4. 2. 情報セキュリティ監査研究会・計画

(1) 体制

- 主査 : 舘岡均
- メンバー : 斉藤茂雄、大西智、豊田諭、村上進司、福田敏博、山口達也、竹原豊和、
佐藤雅英(東北支部)、佐々木訓(東北支部)
- オブザーバ : 仲厚吉、櫻井俊裕、柳田正、畑野元、中山孝明

(2) 2020 年度活動方針

2020 年度は、2019 年度の活動を踏襲し研究会活動を進めて行く。

- 1) 各メンバーがトピックス、現在あるいは今後着目する調査／研究内容、などを持ち寄り、ITおよびセキュリティについて現状および動向を俯瞰的に把える活動をする。
- 2) 課題等を整理して、各メンバーの得意分野、興味を持つ「個別の研究テーマ」を研究する。
- 3) 各メンバーがお互いの考え方を尊重することをベースとするコミュニケーションを図り、全員参加型の活動を目指す。

さらには、次のようなことを考慮して活動を進める。

- ・各業界、諸団体、専門分野等のそれぞれをセグメンテーションし、メンバーが分担して調査する。
- ・必要に応じて、知見者(他団体、SAAJ 会員など)にご参加頂き活動レベルの向上を図る。
- ・CSA フォーラムおよび他の研究会との連携を図る。

(3) 具体的な施策

1) 新規メンバー

2020 年度も活動内容に賛同する会員を加えて活動を進める。

2) 個別の研究テーマについて

- ・「IT および情報セキュリティ関連の基準、ガイドライン等の発行、改定の動向調査」を行う。
- ・内部統制におけるシステム監査／情報セキュリティ監査について調査し研究する。
- ・2020 年度に発生し、着目する重大セキュリティインシデントの経過を調査し、見届けて整理する。
- ・活動を続けながら、さらに「個別の研究テーマ」を検討する。

3) 研究会の開催

- ・原則として月1回(平日)、定例研究会を SAAJ 協会事務所で開催。

[> 目次](#)

4. 3. IT アセスメント研究会・計画

(1) 体制

- 主査 : 松枝憲司
- メンバー : 小野修一、桜井由美子、清水恵子、力利則、豊田諭、仲厚吉、成田和弘、
野嶽俊一、原善一郎、松尾正行

(2) 2020 年度活動方針

1) IT ガバナンスに関連する事項

- ・ISO38503 (Assessment of the governance of IT) の ISO 化の支援。
- ・2020 年 6 月 3~7 日ロンドンで開催される ISO 国際会議へ参加し、CD2 等の検討に参画する。
- ・11 月に開催予定(場所は未定)の ISO 国際会議にも参加する。(松尾)

2) システム管理基準の改訂、活用等

- ・赤本改定プロジェクト(別途報告)について、6 月の出版を目指して改定作業を取りまとめる。
- ・赤本第 3 版等によりシステム管理基準及び IT ガバナンスに関する普及を図っていく。
- ・システム監査・管理基準連絡会議(基準改定に参画した団体を中心に基準の活用を目的に設けた連絡会議であり経済産業省からもオブザーバとして参加) SAAJ として参加する。(力・松枝)

(3) 研究会の開催

- ・定例研究会は原則月1回であるが、状況に応じて、1) IT ガバナンス関連と 2) システム管理基準の改訂作業を個別に開催する。

[>目次](#)

4. 4. 個人情報保護監査研究会・計画

(1) 体制

○主査 : 斎藤由紀子

○メンバー : 五味巻二、斉藤茂雄、坂本誠、柴田幸一、仲厚吉、永井孝一、成田佳應、林昭夫、松浦正東、村上進司、吉谷尚雄

(2) 2020 年度活動方針

- 1) 国が、欧州一般データ保護規則(GDPR)の十分性認定を維持するため、改正個人情報保護法の2020年通常国会成立が予定される中で、現行のJIS Q15001:2017規格が、保護法より厳格なため、プライバシーマーク取得事業者にとっては、大きな課題とはならないと予測されるが、具体的に「しなければならぬ」ことを明確にして、「PMS実施ハンドブックV2」様式集に反映し、かつ「PMS実施ハンドブックV2」の見直しも視野に入れて検討していく。
- 2) ISMSなど、他マネジメントシステムとの近接性について継続的に研究し、JIS Q15001:2017規格が、今後どのように改定されていくのかを予測しつつ、特定とリスク分析の手法、個人情報保護監査サービスの手順見直しなどを図る。
- 3) 1788都道府県条例（広域連合を含め2000個問題）の統合化計画が検討されていることから、自治体のPMSと民間のPMSとの差異についても、注目していく。

(3) 具体的な施策と今後の課題

以下のテーマを中心に、メンバーが自身のテーマを持って毎回の定例会にて報告する。

- 1) 個人情報保護法改正の状況調査
 - ・利用停止権の導入
 - ・個人情報の範囲拡大（Cookie、位置情報、仮名化情報など）
- 2) 欧州一般データ保護規則(GDPR)について研究。
- 3) 他マネジメントシステムとの近接性についての研究
 - ・ISMSとのリスク分析の手法比較
 - ・個人情報保護監査サービスの手順見直し
- 4) 1788の都道府県条例（広域連合を含め2000個問題）の統合化計画と、自治体のPMS研究
- 5) 社会情勢の変化
 - ・公正取引委員会：プラットフォーム「優越的地位の乱用」独占禁止法違反の恐れ
 - ・デジタル経済における故人データの保護
 - ・2020年1月米カリフォルニア州消費者プライバシー法施行との関係
- 6) 「PMS実施ハンドブックV2」（JIS Q15001:2017対応版）様式集ダウンロードサイトの更新

(4) 2020 年度定例会の予定

日程：毎月第三水曜日 18:30～20:00

場所：茅場町事務所

[>目次](#)

4. 5. プロジェクト監査研究会・計画

(1) 体制

2019年メンバーに加え、新メンバーを追加募集する。チームは、新メンバーと見直し、再編成する。

【参考】2019年体制（下記）：14名（本部9名、支部5名）

○主査 : 原田憲幸（理事）

○監査全体チーム : 結城健一（リーダ）、和手信泰、片山邦彦、杉谷博史[近畿]

○企画／完了監査チーム：細川健一(リーダー)、森内正美(サブリーダー)、園田博、田村修、
原善一郎[中部]、栗山孝祐[中部]、梶川明美[北信越]

○設計開発監査チーム：大野勇進(リーダー)、加藤智康[中部]、原田憲幸

(2) 2020 年度活動方針

1)出版：

- ・2019 年度の成果を出版する
- ・表題：「失敗しないシステム開発のためのプロジェクト監査」(予定)
- ・出版社：同文館出版(予定)、出版時期：2020 年春(予定)

2)全体会議での研究活動：毎月開催 (SAAJ会議室 + WebTV会議)

「プロジェクトマネジメント」と「監査」の事例・体験を発表し、意見交換する。
メンバー相互が発表し、意見交換することで、プロジェクトマネジメントと監査の知見を高める。
WebTV 会議を使って、支部等の遠隔地のメンバーも参加する。

3)分科会活動：

複数チームに分かれ、WebTV 会議等で討論し、成果を、全体会議で発表する。
活動テーマとチーム編成は、新メンバーを加えて協議し、定める。

[テーマ(案)]

- ・DX (Digital Transformation) と監査
- ・アジャイルと監査
- ・成功するプロジェクト
- ・国際会計基準対応のシステム改修の監査
- ・その他

4)普及活動：

「プロジェクト監査」についての 2019 年度成果を広く普及させる。

- 1.SAAJ ホームページに「プロジェクト監査研究会」サイトを開設し、PR する
 - ・成果の紹介、普及
 - ・事例、体験の簡単な紹介
 - ・講習会、講演会などの告知
- 2.講習会、研修会、講演会を開催する
 - ・プロジェクト監査について講演する。
 - ・出版本をテキストとし、分かり易く解説する。
 - ・全体会議や分科会活動での研究成果について講演する
3. 外部での講演
 - ・SAAJ 外での講演会等の機会、プロジェクト監査について講演する

(3) 2020 年度活動の目標

- ・2020 年春：出版
- ・「プロジェクト監査研究会サイト」の開設、PR
- ・毎月の全体会合の開催、研究会活動の推進
- ・プロジェクト監査普及の講演会などの実施

(4) 研究会の運営

- ・全体会議：毎月第 4 金曜日(原則)19:00～開催。WebTV 会議*1 で遠隔地メンバーも参加。
*1：ZohoMeeting を使用
- ・分化会活動：チーム毎に、チームリーダーを中心に WebTV*1 会議等で討議。
- ・4 月：追加メンバーを加え、研究会の活動テーマ、チーム編成を討議し、定める
- ・12 月：活動状況まとめ、次年度計画作成

> 目次

5. 支部・計画

5. 1. 北海道支部・計画

5. 1. 1. 北海道支部体制

- 支部長 : 宮崎 雅年
- 副支部長 : 小林 弘幸
- 会計 : 谷口 泰正
- 研究会担当 : 宮崎 雅年 (兼務)、伊藤 淳一
- 広報担当 : 曾根本 育裕
- 監事 : 大館 広之

5. 1. 2. 2020 年度活動方針

(1) 月例研究会実施

月例研究会は、本部より送付される本日月例研究会の DVD を上映して意見交換を行うほか、支部員が持ち回りで講師を務め、1 月から 11 月まで毎月実施する。

(2) 広報

- ・支部活動について対外的な広報、および支部員勧誘を行う。
- ・対外的な広報に関しては、協会のホームページの北海道支部のコーナーのほか、北海道支部の Facebook ページを充実させる。

(3) メーリングリストによる連絡

支部メーリングリストにより、支部員間の連絡および情報交換を行う。

(4) 本部総会・西日本支部合同研究会への支部員派遣

2020 年 2 月 21 日に東京で開催される本部の第 19 期総会のほか、西日本支部合同研究会へ支部員を派遣し、他支部との交流を図る。

5. 2. 東北支部・計画

5. 2. 1. 東北支部体制

- 支部長 : 横倉 正教
- 副支部長 : 佐藤 雅英
- 会計 : 櫻谷 昭慶
- 研究広報 : 佐藤 雅英(兼務)、後藤 武志、佐々木訓
- 監事 : 館田あゆみ
- 顧問 : 鈴木 実

5. 2. 2. 2020 年度活動方針

(1) 月例研究会及び役員会

- ・定例会を 2 ヶ月に 1 回程度、交流会を 1~2 回程度開催する。(奇数月)
- ・定例会の開催場所は仙台市の他、各県での開催を検討しつつ運営する。
3/28 (土)、5/9 (土)、7/11 (土)、9/12 (土)、11/28 (土)
- ・2021 年度の総会開催に関する役員会を開催する。 11/28 (土) (最終月例会終了後)
- ・ITC みやぎ・SAAJ 東北・JISTA 東北 3 団体合同のワークショップを開催する。(10 月)
- ・2019 年に引き続き、特別WGを進める。(RFP 見本の作成)
1/25 (土)、2/5 (土) (以降の開催日程は参加メンバーに合わせ別途決定する。)

(2) 広報活動

- ・各県の IT コーディネータ組織、日本 IT ストラテジスト協会東北支部、OWASP Sendai との連携を図り、当協会、東北支部の広報宣伝活動を強化する。
- ・協会ホームページの支部便りを活用し、特に、東北支部地域へのシステム監査に関する情報の発信を行う。

- ・協会本部と連携し、入会勧誘の宣伝をする。
(IPAの情報処理技術者試験実施日等で、チラシを配布する。)

(3) 会員増強

- ・IPAの情報処理技術者試験(システム監査技術者)合格者などを対象に会員加入を推進する。

(4) システム監査普及サービスの実施

- ・2020年度は、更に会員がシステム監査を体験できるように、システム監査普及サービス対象企業を募り、事例研究会と共同開催を目指す。

[> 目次](#)

5. 3. 北信越支部・計画

5. 3. 1. 支部体制

- 支部長 : 宮本 茂明 (石川)
- 副支部長 : 梶川 明美 (富山)
- 会計 : 長棟 隆 (富山)
- 監事 : 梶川 明美 (富山)
- 県部会長 : 小嶋 潔 (福井)、福田 和夫 (石川)、風間 一人 (新潟)、長谷部 久夫 (長野)
- 顧問 : 森 広志 (富山)

5. 3. 2. 2020年度活動方針

支部会員の能力向上と支部の技術基盤向上を目指す。

(1) 会員相互の研鑽によるシステム監査技術の向上

- ・システム監査・情報セキュリティ監査・システムリスク管理等、会員の担当業務の課題や研究活動に関する情報共有・意見交換により、課題解決への方向性等の気づきの場を設ける。

(2) 本部、他支部との交流による知識、技術力の向上

- ・研究会ビデオの貸出し運営(地域別上映)
- ・他支部との合同研究会、交流等の企画推進

(3) プレゼンテーション能力の向上

(4) インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上

(5) 会員増強/システム監査の普及・啓発

- ・他団体との支部例会での交流等を通じ会員増強/システム監査の普及・啓発を推進

5. 3. 3. 活動計画

(1) 支部総会、各県例会

会員の研究報告及び他支部との合同研究会のテーマ検討等を実施予定。

- ・3月 年度支部総会(富山市開催)
- ・6月 長野県例会(長野市開催)
- ・9月 福井県例会(福井市開催) ※中部合同研究会と同時開催予定
- ・12月 石川県例会(金沢市開催)

(2) SAAJ 中部支部・北信越支部・JISTA 中部合同研究会開催 (9月予定)

(3) 西日本支部合同研究会参加

(4) その他

- ・メーリングリスト等を通じた会員の相互交流、情報交換
- ・会員増強/システム監査の普及・啓発に関する活動企画

[> 目次](#)

5. 4. 中部支部・計画

5. 4. 1. 支部体制

- 支部長(理事) : 安井 秀樹(新任)

- 副支部長（理事）：杉山 重人（新任）
- 会計担当：加藤 智康（新任）
- 会計監査：鈴木 尚（新任）
- 監事：栗山 孝祐（留任）
- 顧問：久保田 秀男（西日本支部合同研究会担当）（新任）
- 顧問：大友 俊夫（留任）
- 顧問：田中 勝弘（本部研究会ビデオ管理担当）（留任）

5. 4. 2. 2020 年度活動方針

- (1) 中部支部内会員の継続的な相互研鑽・交流を図る。
- (2) 中部支部以外の地域や団体との情報交流を積極的に展開する。

5. 4. 3. 活動内容(予定)

- (1) 研究会：（奇数月(1月、3月、5月、7月、9月、11月)の土曜日）
 - ・実務面での適用について会員相互間の情報交換などを行う。
- (2) 西日本支部合同研究会の主催
 - ・西日本の各支部から広く研究発表を頂き、新たな研究に繋がるようなテーマ設定とし企画・実施する。
- (3) SAAJ 中部・北信越支部・JISTA 中部支部合同研究会 参加
 - ・主催：北信越支部
- (4) その他
 - ・メーリングリスト等を通じた会員の相互交流、情報提供を行う。

[> 目次](#)

5. 5. 近畿支部・計画

5. 5. 1. 支部体制

(1) 支部役員

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| ○理事（支部長／BCP 研究プロジェクト／IT サービスグループ） | 荒町弘 |
| ○理事（副支部長／会計／教育サービスグループ） | 福本洋一 |
| ○理事（副支部長／教育サービスグループ） | 荒牧裕一 |
| ○担当役員（IT サービスグループ／教育サービスグループ） | 是松徹 |
| ○担当役員（教育サービスグループ） | 山本全 |
| ○担当役員（IT サービスグループ） | 下田あずさ |
| ○担当役員（IT サービスグループ） | 近藤博則 |
| ○担当役員（システム監査法制化推進プロジェクト） | 田淵隆明 |
| ○担当役員（システム監査法制化推進プロジェクト） | 神尾博 |
| ○担当役員（BCP 研究プロジェクト） | 松井秀雄 |
| ○監事 | 浦上豊蔵 |

(2) 支部参与

吉田博一

(3) サポーター

三橋潤、松本拓也、植垣雅則、尾浦俊行、金子力造、川端純一、中田和男、吉谷尚雄、阪口博一、伊藤聖子、尾崎正彦、岩崎真明、小河裕一、浜田恒彰、石嶋藤代、魚谷悦己
 ※サポーターには定例研究会受付など支部の基幹的活動へ少しでも参画いただきます。

5. 5. 2. 2020 年度活動方針

- ・定例研究会、システム監査勉強会を基本として、研究プロジェクト・グループ活動を通じて実践的な研鑽活動を行い、支部活動を充実する。また、支部役員会・サポーター会議の計画的な開催と課題管理等により支部運営のマネジメントを実施する。
- ・協会本部のシステム監査活性化プロジェクトの活動に連動して、支部会員の増強に努める。

- ・各活動については事業別の採算状況の可視化を行うことで財務の健全化と事業戦略策定への活用を行い、近畿支部財政状況の改善を目指す。
- ・2019年度は教育サービスグループのセミナー担当に新たにスタッフ2名が加わった。2020年度も引き続き支部活動におけるスタッフ増強に向け、積極的に支部会員へ参加を働きかける。
- ・支部サポーター及び担当役員の候補者を増やせるよう努める。

5. 5. 3. グループ活動

(1) 教育サービスグループ

- ・主査：荒牧裕一氏 副主査：福本洋一氏、是松徹氏、山本全氏

【目標】

1. 近畿支部会員を中心としたシステム監査人の方々に、システム監査に関連する教育サービスを提供し、システム監査人の知見やスキルの向上に寄与することを目的とする。
2. セミナーを通して、システム監査に関心がある方々および実際に企業内で関与されている方々に、システム監査の知識や体験を修得いただくことを目的とする。

【成果目標】

- ・定例研究会：6回開催（1,3,5,7,9,12月）
※11月はシステム監査基本学習セミナー開催月のため、個別開催なし
- ・システム監査勉強会：4回開催（2,4,6,10月）
- ・セミナー教材・活動報告書（第4四半期に2回）
- ・上記サービス提供にあたっての、運営計画書（TODO管理ツール）

(2) ITサービスグループ

- ・主査：是松徹氏 副主査：近藤博則氏、下田あずさ氏、荒町弘氏

【目標】

- ・近畿支部の諸活動の可視化による、活性化支援を目的とする。
- ・具体的には、Webサイト（<http://www.saajk.org/>）とMLの安定運用、サイト（コンテンツ）の充実、メールマガジンの発行を行う。

【成果目標】

- ・Webサイト、MLの安定運用（サイトのhttps化等）
- ・コンテンツの充実（研究論文・報告書等の会員の成果物の掲載。さらに認知度向上、システム監査普及につながるコンテンツを「IT運用勉強会」等で検討）
- ・メールマガジンの発行（季刊）
- ・本部会報掲載：コラムまたはエッセイ（A4*2枚換算）2本以上
- ・サイトの運用ルール、ガイドラインの継続的改善

5. 5. 4. 研究プロジェクト

(1) システム監査法制化推進プロジェクト

- ・主査：田淵隆明氏 副主査：神尾博氏

【目標】

- ・システム監査法制化のロビー活動（ただし各個人の立場で）
- ・システム監査法制化以外のIT政策の研究・提言・発信
- ・各自治体における、システム監査義務化の推進状況の発信

【成果目標】

- ・講演：年1回以上（原則SAAJK。当PT成果の外部講演時は事前/事後に役員会に報告）
- ・論文：年1本以上。なお、本部会報掲載のコラム（A4*2枚程度）3本分を、論文1本換算とする。
- ・活動報告書：年1本以上目標（活動自体は業界団体等に年3回以上目標）

(2) BCP研究プロジェクト

- ・主査：荒町弘氏 副主査：松井秀雄氏

【目標】

- ・組織におけるBCPに役立つ情報発信を行う。
- ・IT-BCPに関する監査基準・ポイントを整理する。

【成果目標】

- 講演： 年1回以上目標（原則 SAAJK）
出前型セミナーの実施（顧客依頼に基づき実施する）
研究： 医療分野における BCP 策定支援に向けた取組みを行う
情報発信： S A A J 本部会報記事掲載（A4*2 枚程度を2本以上）
作成支部サイトや SNS 等を通じて BCP に役立つ情報を発信する

[> 目次](#)

5. 6. 中四国支部・計画

5. 6. 1 役員体制

- 支部長 : 廣末 浩之
- 副支部長 : 田川 誠、佐藤 康之
- 会計 : 本多 美和子
- 監事 : 福原 博明

5. 6. 2 2020 年度活動方針

- (1) 中四国支部会員及び公認システム監査人の継続的な研鑽と情報交換の場を提供する。
- (2) システム監査の普及に努める

中四国地域で唯一のシステム監査人の団体として、システム監査に関する窓口組織となるべく広報活動等によりシステム監査の普及に努める。

5. 6. 3 活動計画

- (1) 例会の開催
 - ・月例研究会の DVD 視聴
 - ・その他、情報交換
- (2) 他支部、他団体との連携
 - ・地域の諸団体との共催によるセミナー開催
 - ・西日本支部合同研究会への参加

[> 目次](#)

5. 7. 九州支部・計画

5. 7. 1 役員体制

- 支部長 : 船津 宏
- 副支部長 : 荒添 美穂、中溝 統明
- 会計 : 鶴岡 通
- 監査 : 下司 正雄
- 事務局 : 福田 啓二
- 地区担当 : 長崎 平山 克己
: 熊本 桐原 光洋
: 大分 梶屋 博史
: 鹿児島 山下 博美

5. 7. 2. 2020 年度活動計画

- (1) 月例会の開催 原則月1回の月例会を継続する
 - ・本部月例研究会のビデオなどによる自己啓発を推進する。
 - ・個人の自己啓発・情報発信活動を推進する。
 - ・参加しやすい雰囲気づくりを行い、活性化を図る。
 - ・ISACA、システム監査学会会員などの参加を促進し、活性化を図る。
- (2) イベント企画・推進
 - ・他支部、他団体とのセミナーなどの企画・開催・参加を推進する。

- ・大分合同セミナー（2月）：大分 I T 経営推進センター主催。
 - ・西日本支部合同研究会（11月）。
- (3) 協会ホームページ・メーリングリストによる情報・意見交換を推進する
- (4) 支部会員の維持・拡大を図る

[> 目次](#)

3 2019年度 特定非営利活動に係る事業会計 事業予算科目案

2020年1月1日から2020年12月31日まで 特定非営利活動法人日本システム監査人協会

科 目	2019年度		2020年度	備 考
	第18期 予算	実績	第19期 予算	
I 収益の部				
1 受取入金・会費	6,980,000	6,862,000	6,680,000	
受取入金	80,000	77,000	80,000	
受取会費	6,900,000	6,785,000	6,600,000	
2 受取寄附金	500,000	522,938	500,000	
3 事業収益	8,166,000	8,666,432	10,839,000	
普及・啓発、広報事業	0	26,000	0	
研究・研修事業	5,117,000	4,548,265	5,160,000	月例会、セミナー、研究会等
認定事業	2,200,000	3,257,150	4,800,000	認定料、登録料、更新料
支部事業 (本部助成金)	1,747,000 △898,000	1,699,017 △864,000	1,750,000 △871,000	
4 その他収益	1,000	176,237	1,000	
印税収益	0	175,304	0	
雑収益	1,000	933	1,000	受取利息等
当期収益 合計 (A)	15,647,000	16,227,607	18,020,000	
II 費用の部				
1 事業費	11,408,000	9,591,849	12,019,000	
普及・啓発、広報事業	2,090,000	1,251,230	1,970,000	会報、パンフ、ホームページ等
研究・研修事業	5,571,000	4,620,087	5,499,000	各研究会、セミナー講師料等
認定事業	2,000,000	2,392,833	2,800,000	認定員手当、認定証作成費
支部事業	1,747,000	1,327,699	1,750,000	
2 管理費	6,848,000	6,728,493	7,218,000	
通信費	200,000	168,843	170,000	
旅費交通費	600,000	442,327	550,000	
消耗品費	270,000	164,006	270,000	
会議費	330,000	306,059	300,000	
事務局手当	3,000,000	3,192,858	3,500,000	
厚生費	6,000	5,276	6,000	
事務所運営費	1,700,000	1,736,616	1,750,000	
ハード・ソフト費用	500,000	386,380	450,000	PC購入等
諸会費	72,000	72,000	72,000	
印税支払	0	109,379	0	
雑費その他	170,000	144,749	150,000	
3 減価償却費	500,000	342,785	300,000	
4 租税公課	200,000	247,975	30,000	
当期費用 合計 (B)	18,956,000	16,911,102	19,567,000	
当期収支差額 (A) - (B)	△3,309,000	△683,495	△1,547,000	
内、当期正味財産増減額		△531,915		
内、資産購入に伴う収支差額		△151,580		
償却前収支差額	△2,809,000	△340,710	△1,247,000	

*ハード・ソフト費用等で、10万円以上の支払いとなった場合は、費用でなく資産として計上する。

■
[>目次](#)

4 2020年度 役員選任（案） 第19期役員候補

第19期役員候補

		役員	氏名	備考
本部	1	理事	麻生 秀明	新任
	2	理事	安部 晃生	
	3	理事	大石 正人	
	4	理事	億谷 和彦	新任
	5	理事	小野 修一	
	6	理事	越野 雅晴	
	7	理事	斉藤 茂雄	
	8	理事	斎藤 由紀子	
	9	理事	坂本 誠	新任
	10	理事	櫻井 俊裕	
	11	理事	清水 恵子	
	12	理事	竹原 豊和	
	13	理事	館岡 均	
	14	理事	力 利則	
	15	理事	戸室 佳代子	
	16	理事	豊田 諭	
	17	理事	仲 厚吉	
	18	理事	永井 徳人	新任
	19	理事	中山 孝明	
	20	理事	野田 正勝	
	21	理事	原田 憲幸	
	22	理事	林 昭夫	
	23	理事	福田 敏博	
	24	理事	細川 健一	新任
	25	理事	松枝 憲司	
	26	理事	松尾 正行	
	27	理事	三谷 慶一郎	
	28	理事	三輪 智哉	
	29	理事	柳田 正	
	30	理事	山口 達也	
北海道	31	理事	宮崎 雅年	
東北	32	理事	横倉 正教	
北信越	33	理事	宮本 茂明	
中部	34	理事	安井 秀樹	
	35	理事	杉山 重人	新任
近畿	36	理事	荒町 弘	
	37	理事	福本 洋一	
	38	理事	荒牧 裕一	
中四国	39	理事	廣末 浩之	
九州	40	理事	船津 宏	
監事	41	監事	木村 裕一	
	42	監事	大西 智	

[> 目次](#)